

UCCグループ サステナビリティレポート

Sustainability Report 2026



Our Purpose

私たちの存在意義

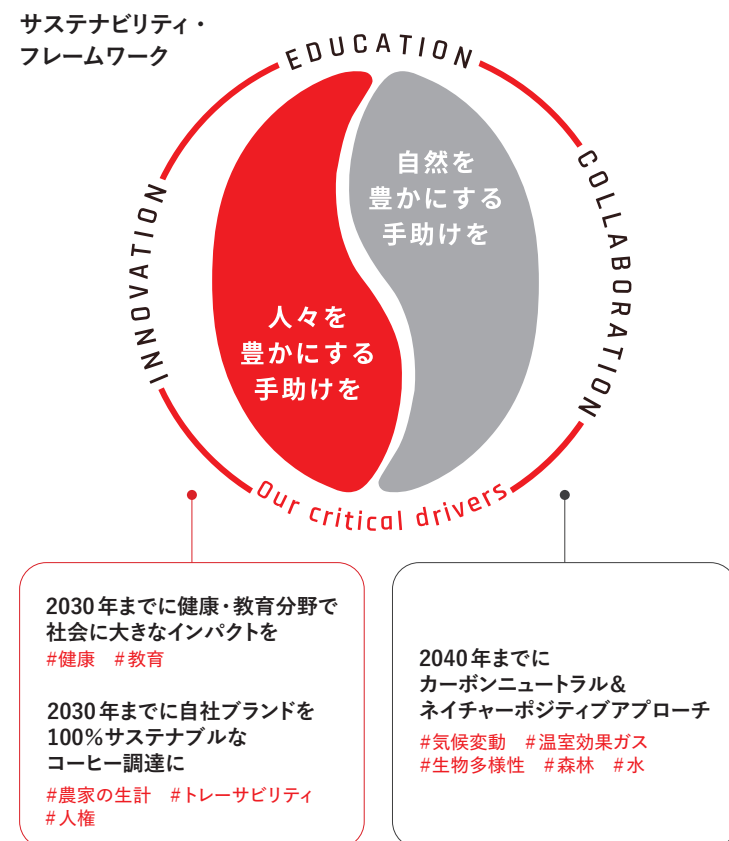
より良い世界のために、
コーヒーの力を
解き放つ。



Sustainability Vision

サステナビリティビジョン

コーヒーの力で、
世界にポジティブな
変化を



Message from CEO

CEO メッセージ

UCCグループは、1933年の創業以来、「いつでも、どこでも、一人でも多くの人においしいコーヒーを楽しんでいただきたい」という創業精神を受け継ぎ、コーヒーの価値探求・価値創造に取り組んできました。生産国での栽培から、農事支援、原料調達、研究開発、焙煎加工、販売、品質保証、そして、文化、教育に至るまで、おいしいコーヒーを楽しんでいただくためのありとあらゆることを自社で手掛けております。

将来コーヒーが今のように飲めなくなるかもしれない、そのようなことがよく聞かれます。私たちの命とも言うべきコーヒーを持続可能にするため、またコーヒーの力で持続可能な地球社会に貢献するため、グループとしてできることに全力で取り組まなければなりません。

私たちは2022年4月制定のサステナビリティビジョン「コーヒーの力で、世界にポジティブな変化を」のもと、水素焙煎コーヒーの普及による気候変動に向けた活動や、農林水産省およびIFADと連携したタンザニアでの生産者支援によるネイチャーポジティブ施策など、自然を豊かにする手助けとなる活動を行いました。また、健康領域ではコーヒー由来のトリゴネリンを活用した飲料TOTONOUを発売、人々の健康に対する価値創造にも取り組んでおります。そして、本年は6年ぶりにコーヒー博物館をリニューアルオープンし、コーヒーの歴史や未来を体験していただく機会を提供させていただき、コーヒーの力を感じていただく機会も再度提供させていただいています。

また、グループ活動推進の根幹である“人材”に対する取り組みも今までも増して進めており、サステナビリティに関わる現場主導の取り組みも今後ますます加速していくことと信じております。

サステナビリティビジョンの実現には、特にステークホルダーの皆さまとの協働・共創が最重要ポイントとなるのは間違いありません。本サステナリティレポートはステークホルダーの皆さまとの対話をより活発にすることを目的に制作しており、本レポートを通じて皆さまと同じ方向を向いて取り組みをご一緒し、共に価値を創造することで、世界にポジティブな変化を起こしていきたい、のように私たちは考えています。「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」これからも、UCCグループは、より良い世界のために、コーヒーを通じた価値創造に挑戦し続けます。

グループ CEO

上島 豪太

Contents

目次

- 01 私たちの存在意義／サステナビリティビジョン
- 02 CEOメッセージ／目次
- 03 UCCグループの全体像
- 05 特集1 UCCグループの人づくり
人材はUCCグループの持続可能な未来をつくる原動力
UCCグループらしい「人づくり」とは？
- 09 特集2 知の創造エリア
コーヒーの未来を考え育む、「UCC神戸コーヒービレッジ」にコーヒー博物館がリニューアルオープン
- 13 特集3 商品を通じた健康への貢献
おいさと健康を両立「TOTONOU」発売！
- 15 マテリアリティの進捗
15 水素焙煎コーヒーの普及
17 ネイチャーポジティブへの展望
- 19 サステナビリティマネジメント
- 21 環境 | 持続可能な地球を目指すために／気候変動対策／ネイチャーポジティブアプローチ
- 23 環境 | サーキュラーエコノミーへの貢献
- 25 社会 | 産地支援とコーヒーコミュニティのより良い暮らしのために
- 28 社会 | UCCグループとステークホルダーの皆さまのウェルビーイング
- 33 ガバナンス | UCCグループの透明性向上とリスクマネジメント
- 35 パフォーマンスデータ

Editorial policy

編集方針

本レポートでは、UCCグループのサステナビリティに関する考え方やグローバル目標、それらを実現・達成するための取り組みと成果を報告しています。ステークホルダーの皆さまがUCCグループへのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

発行 2026年9月

対象期間 2025年1月1日～12月31日

対象範囲 UCC ジャパン
UCC 上島珈琲
UCC コーヒープロフェッショナル
ユースーシーフードサービスシステムズ
ラッキーコーヒーマシン
UCC EUROPE
UCC ASIA PACIFIC PTE.
UCC COFFEE AUSTRALIA ほか

Group data

グループデータ

グループ会社数 81社(2025年12月末)

グループ従業員数 5,183名(2025年12月末)

Group overview

UCCグループの全体像

UCCグループは、生産国での栽培から、原料調達、研究開発、焙煎加工、販売、品質保証、そして、文化、教育に至るまで、コーヒーに関するすべての事業を自社で手掛けています。



① UCC Hawaii

UCCハワイコナコーヒー・エステートは、UCCグループで2番目の直営農園として1989年に設立。ハワイ島コナ地区フアラライ山の裾野、標高460m付近に位置し、総面積16haの敷地で約1万8千本のコーヒーの木を栽培しています。「農園見学ツアー」「焙煎体験ツアー」「季節限定の収穫体験ツアー」など五感で楽しむコナコーヒーの体験ツアーも実施しています。



② UCCブルーマウンテンコーヒー・クレイトンエステート



① UCC EUROPE



① オランダ ボルスワード工場 ② イギリス UCC Europe
③ スペイン Cocatech SLU工場 ④ スイス UCC Coffee Services Switzerland

UCC EUROPEは、イギリスの地域統括会社を中心に欧州8カ国に事業会社を有し、コーヒー事業を展開しています。14の事業会社と9の製造拠点を有し、多くの伝統的なブランドと顧客基盤を強みに、家庭用から業務用まで幅広いニーズに応えています。

概要

- 欧州8カ国(イギリス、アイルランド、フランス、スペイン、ポルトガル、オランダ、スイス、ドイツ)で展開
- 家庭用および外食・法人向けコーヒー事業の推進

② UCC ジャパン



① UCC神戸本社・イノベーションセンター ② UCCコーヒー博物館
(①+②: UCC神戸コーヒービレッジ) ③ 上島珈琲店 ④ 滋賀工場

UCC ジャパンは、日本国内における各事業会社を統括しています。一般家庭向けから飲食店・オフィス向けまで幅広いコーヒー事業を指揮するとともに、海外市場への製品輸出を推進し、国内外へUCCブランドの価値を発信しています。

概要

- 日本国内の各子会社・関連会社の株式を保有
- 家庭用および飲食店・オフィス向け国内コーヒー事業の推進

③ UCC ASIA PACIFIC



① タイ UCC COFFEE ROASTERY ② UCC台湾 雲林工場
③ UCC Coffee Academy Philippines ④ 台湾 COFFEE LOVER's PLANET

UCC ASIA PACIFICは、成長著しいアジア市場を牽引する拠点として、9つの国と地域で多角的に事業を展開しています。家庭用・業務用コーヒーの製造・販売に加え、現地の文化に根ざしたコーヒーショップ運営など、アジア全域で多様なコーヒー体験を提供しています。

概要

- 9つの国と地域(シンガポール、フィリピン、中国、香港、台湾、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム)で展開
- アジア市場の成長を支える広域なネットワーク体制

④ UCC COFFEE ANZ



① ニュージーランド Caffè L'affaire ② ニュージーランド The Roastery At 23
③ オーストラリア UCC Coffee Australia ④ オーストラリア Toby's Estate Coffee

UCC COFFEE ANZは、オセアニアとアジアの一部地域で、複数のスペシャルティコーヒーおよび一般コーヒーブランドを展開しています。また小売・外食産業向けのコーヒー事業に加え、フランチャイズ店、ライセンス店、直営店などからなる店舗ネットワークを運営しています。

概要

- UCC COFFEE AUSTRALIA統括のもと、UCC COFFEE NEW ZEALAND、Toby's Estate Coffee、Caffè L'affaire、Atomic Coffee Roastersの4社が運営

Q 「よりよい世界のために、コーヒーの力を解き放つ」というパーパスを掲げるUCCグループとして、「人づくり」についてどのようにお考えでしょうか？

A UCCグループにとって、人材は持続可能な未来を創る原動力です。私たちは1933年の創業以来、「いつでも、どこでも、一人でも多くの人においしいコーヒーを届けたい」という創業者の想いを受け継ぎ、コーヒーの可能性を追求し続けてきました。

現在、UCCグループは日本、欧州、アジア、オセアニアへと事業を広げ、コーヒーに関わるバリューチェーンをグローバルに展開しています。だからこそ、国や地域、事業領域が異なっても、社員一人ひとりが共通して持つべき価値観、すなわちUCCのDNAを深く理解し、自らの行動に落とし込むことが重要だと考えています。

人づくりとは、単に知識やスキルを身につけることではありません。UCCの歴史や創業者の志、コーヒーへの深い愛情とリスペクトを理解し、自分自身の夢や志と重ね合わせながら、「自分ならどうしたいか」を考え、行動できる人材を育てることだと考えています。

パーパスである「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」を実現するのは、最終的には人の力です。社員一人ひとりの挑戦と成長が、UCCグループの成長であり、コーヒーを通じた社会への価値創造につながると信じています。

Q パーパスやバリューを実現するうえで、UCCグループの社員にどのようなことを期待されますか？

A 社員の皆さんに期待していることは、UCCの一員として、コーヒーへの誇りと責任を持ち、自主自立して考え、行動することです。私たちの5つのバリューである「コーヒーの価値探求」「地球社会への貢献」「挑戦と前進」「協働と共創」「倫理観と責任」は、日々の判断や行動の羅針盤です。特に変化の激しい時代においては、指示を待つのではなく、一人ひとりがこの羅針盤をもとに、自分の頭で考え、現場で行動することが求められます。

UCCの歴史は、世界初の缶コーヒー製造をはじめとする数多くの挑戦、品質への飽くなきこだわり、コーヒー文化の啓発、そしてグローバルへの挑戦の積み重ねです。これらはすべて、先人たちが「コーヒーを通して、まだ世の中になかった価値をつくる」という強い意志を持ち、前に進み続けた結果です。

これからの社員にも、過去の成功体験にとどまるのではなく、コーヒーの新しい価値創造、社会への新しい貢献、そしてお客さまや生産者、地域社会との新しい関係を自らの力で創り出して欲しいと思っています。

また、UCCグループが取り組むサステナビリティは、一部の部署だけが担うものではありません。水素焙煎、サステナブルなコーヒー調達、産地支援、教育活動、健康価値創造、地域社会への貢献など、すべての現場の取り組みがつながって、UCCグループ全体の価値になります。社員一人ひとりが、自分の仕事を通じて「より良い世界」にどう貢献できるかを考え続けることを期待しています。



人材はUCCグループの 持続可能な未来を創る原動力 UCCグループらしい 「人づくり」とは？

Q UCCのグローバルビジネスを支える、UCCらしい人材のイメージはどのようなものでしょうか？

A UCCらしい人材とは、まず、コーヒーへの深いリスペクトを持つ人材です。コーヒーを単なる商品として見るのではなく、生産地の自然環境、生産者の技術や努力、脈々と受け継がれるコーヒー文化、そして一杯のコーヒーを楽しむお客さまの時間・空間まで含めて、その価値を理解しようとする姿勢が大切です。

そのうえで、私はやはり「挑戦する人材」であってほしいと思っています。世界初・日本初への挑戦、品質を高めるために産地へ踏み込む挑戦、コーヒー文化を広げる挑戦、そして海外市場へ飛び出す挑戦。こうした挑戦の積み重ねが、今日のUCCグループを形づくっていますし、これからも形づくっていくと信じています。

さらに、グローバル企業である以上、多様な文化や価値観を尊重し、社内外の仲間と協働・共創できることも欠かせません。各地域にはそれぞれの市場、お客さま、文化があります。その多様性を受け止めながら、UCCグループとして大切にすべき軸はぶらさず、ローカルに根ざした価値を生み出す。そのような柔軟性と芯の強さを持った人材が、これからのUCCグループを支えていくと考えています。

そしてもう一つ重要なのは、現場主義とオーナーシップです。現場で起きていることを自分ごととして捉え、自ら課題を見つけ、周囲を巻き込みながら解決に向けて動く。こうした人材が増えることで、UCCグループはより強く、よりしなやかな組織になっていくと考えています。

Q UCCグループの「人づくり」について、ステークホルダーの皆さまに伝えたいことをお願いします。

A UCCグループが目指しているのは、コーヒーを通じて世界にポジティブな変化を生み出すことです。その実現には、技術や商品、仕組みだけでなく、それを動かす人材の力が欠かせません。

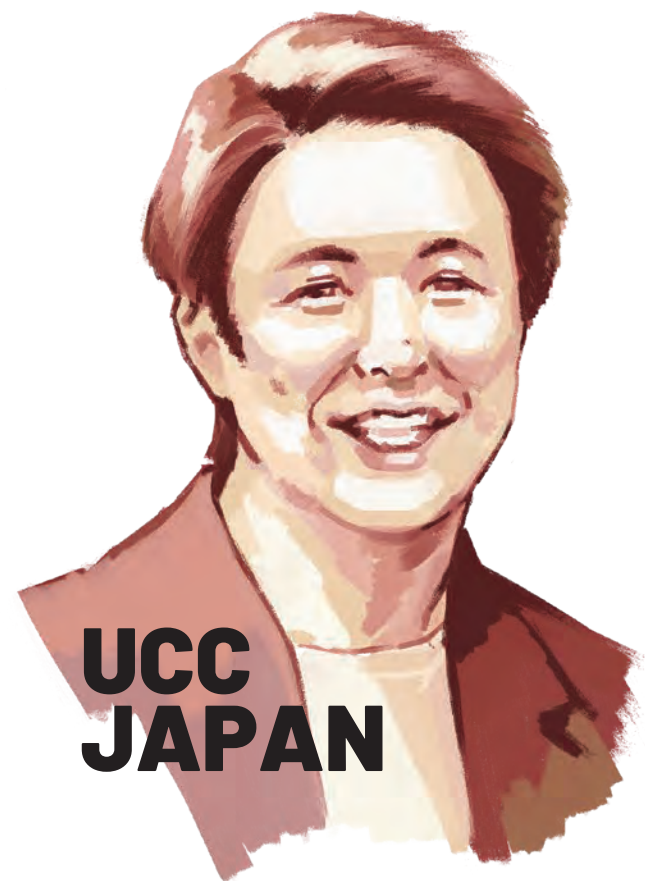
気候変動や人権の配慮などのコーヒー生産地の課題、健康、教育、地域社会との共生など、コーヒーを取り巻く課題は我々一社だけで解決できるものではありません。だからこそ、社員一人ひとりがUCCのパーパスとバリューを自分ごととして捉え、ステークホルダーの皆さまと協働・共創しながら、一歩ずつ具体的な行動を重ねていくことが重要です。

UCCグループは、創業者の想いを守り受け継ぐだけでなく、そこに社員一人ひとりの夢や志、自分らしさを重ね、新しい価値を創り出していく会社でありたいと考えています。人材が成長し、挑戦し、活躍することが、結果としてお客さま、生産者、地域社会、そして地球環境への貢献につながっていく。私はそう信じています。

これからもUCCグループは、「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」というパーパスのもと、人づくりを経営の重要な柱として位置づけ、社員とともに、そしてステークホルダーの皆さまとともに、コーヒーの未来を切り拓いてまいります。



UCCジャパン株式会社
代表取締役社長
上島 昌佐郎



人材育成を体系化し 「UCCらしさ」を世界へ広げます

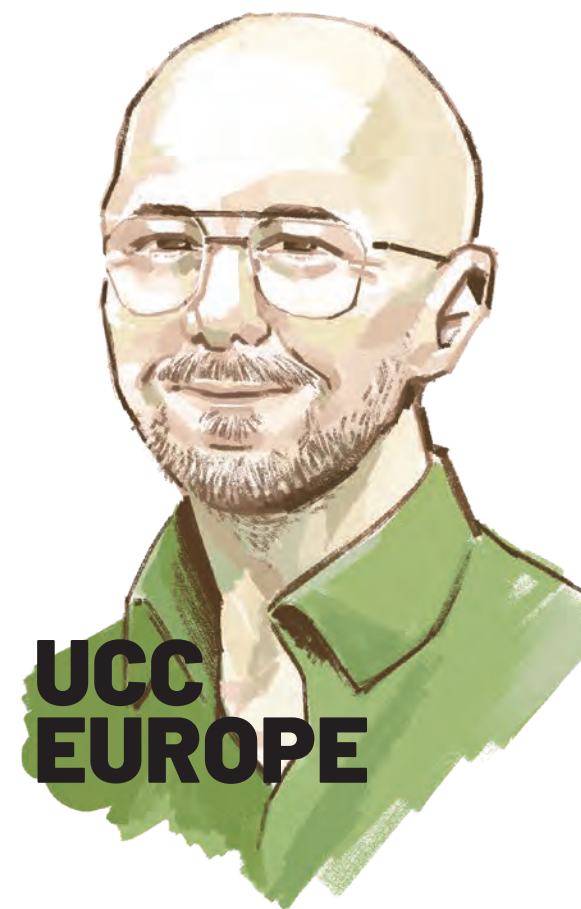
UCCジャパン株式会社
執行役員
柳原 優樹

海外売上比率が4割を超えグローバル化が進む中、発祥の地・日本の人材育成の重要度が高まっています。従業員が当たり前と感じている「UCCのコーヒーの素晴らしさ」を改めて強く実感し、心から発信できるようにしていく必要があります。これまで良くも悪くも職人の徒弟制度のようだった教育環境を見直し、仕組みの体系化を進めます。

私の目標は、世界一のコーヒープロフェッショナル集団をつくり上げることです。最終的には従業員一人ひとりが矜持を持って、UCCのコーヒーとその「らしさ」を世界中に浸透させていくことを目指します。

ユニークな人事制度

- 役職階層別での新任昇格者研修
- e-ラーニング全社導入による学びのプラットフォーム提供
- 経営マネジメントスキルの定量把握



高い満足度と現場発の改善活動で 強い組織をつくります

UCC Coffee Benelux and Smit & Dorlas (OOH Netherlands business)
HR Director
Han Meij

UCC EUROPEでは、従業員の成長と満足度の向上が企業の競争力を高めると考え、さまざまな取り組みを進めています。日常的な対話や独自の社内コミュニケーションアプリ「One App」、全社ミーティングを通じて情報共有を強化するとともに、毎年実施する従業員満足度アンケートの声を反映。その結果、総合評価は10点満点中8.0の高い水準まで向上しました。

また、安全・品質・効率を重視した改善活動により、現場から300もの改善案が提示され、うち130以上を導入しています。今後も従業員の声を大切にし、主体性を育むことで、将来に向けた強い組織づくりを目指します。

ユニークな人事制度

- 安全、品質、効率性に重点を置いた継続的改善プログラムの実施

Developing human resources

各拠点での人材育成

人材マネジメントの刷新で 持続的成長へ向かいます

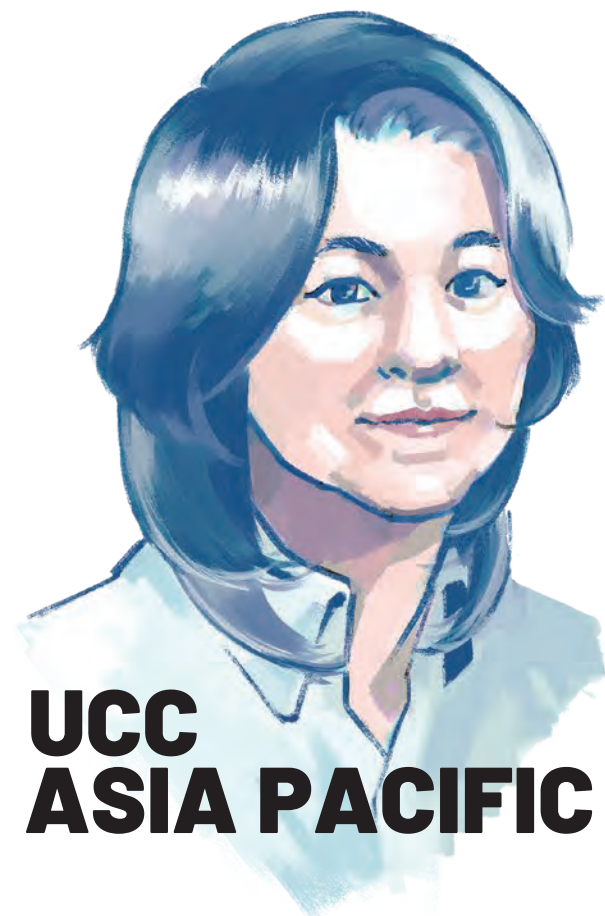
UCC AP HR and Administration
Manager
Tammy Ting

アジア太平洋 (AP) 地域では、「コーヒーの力で、世界にポジティブな変化を」というグループビジョンのもと、人材の力を持続的な成長の基盤と捉えて育成を推進しています。ここではモチベーション向上や能力開発とともに、公平で一貫性のある評価制度の強化を重点課題としています。

一方で、各国間での制度や環境の違いによる評価基準の不統一、人材不足に課題が残っています。これに対しては、地域横断の人材マネジメント体制の整備や、評価・報酬制度の見直しを推進。誰もが納得できる公平で透明性の高い組織運営を目指しています。

ユニークな人事制度

- 人材管理に関する地域ガバナンス体制の強化



確かな研修実績から 2026年のロードマップへつなげます

UCC ANZ People, Culture & Transformation
Director
Vanessa McCambridge

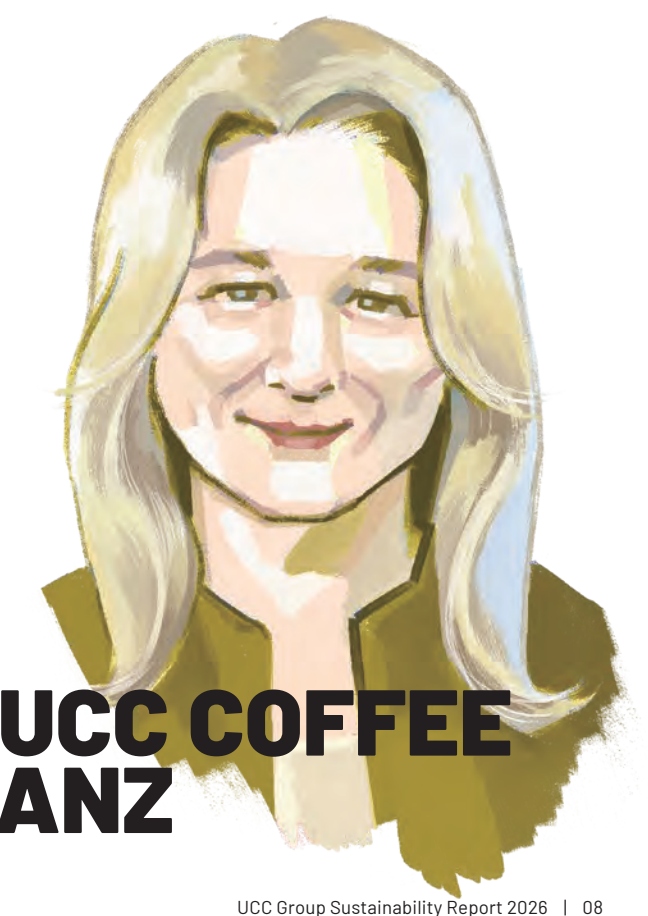
UCC ANZでは、コーヒーへの情熱を原点に、人材の成長を通じた持続的な価値創出を推進しています。2025年度は、6つの行動指針に基づく研修を通じて62名のリーダーを育成。また、多様な思考を促進する「HBDI®モデル」の研修を280名以上の従業員に実施し、自己認識やコミュニケーション、課題解決能力の向上を図りました。

今後は2026年度の「人材・能力ロードマップ」のもと、後継者育成やDEI、リーダーシップ学習を体系的に展開し、さらなる人材育成を加速させます。

※大脳生理学に基づき個人の思考特性(利き脳)を4領域に分類・可視化する診断ツール。相互理解や組織開発に活用されている。

ユニークな人事制度

- 協調性やリーダーシップ発揮を導く「UCC ANZの6つの行動指針」の作成
- 個人の能力開発に注力する「人材・能力ロードマップ」の作成



コーヒーの未来を考え育む、 「UCC神戸コーヒービレッジ」に コーヒー博物館が リニューアルオープン

世界的なコーヒー需要の拡大に対し、気候変動による生産環境への影響が将来の安定供給を脅かしています。

UCCグループはこの課題解決に向け、「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」というパーパスのもと、コーヒーに関する知の継承・進化・創造を通じた持続可能な未来づくりに取り組んでいます。

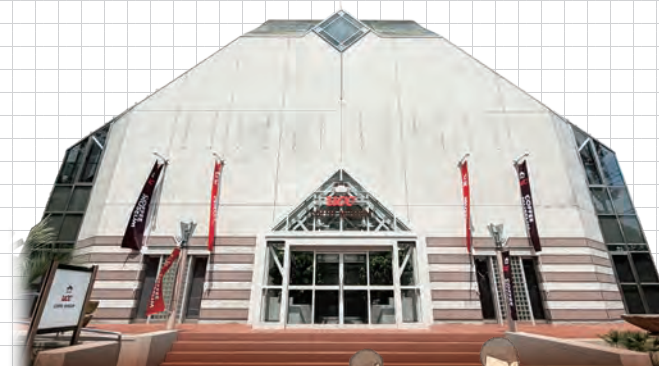
その中核を担うUCCコーヒー博物館は、2026年夏のリニューアルを経て、コーヒーの未来を皆さんとともに考え育む場へと生まれ変わりました。

UCCコーヒー博物館

コーヒーに関する多岐にわたる情報をカバーした日本唯一のコーヒー専門博物館。歴史や文化、淹れ方、楽しみ方を通じ、コーヒーが生み出す心豊かな暮らしのヒントを提案しています。



公式サイト
<https://www.ucc.co.jp/museum/>



POINT 01

コーヒーの 「未来」を知る

コーヒーの未来はどうなる？コーナー

コーヒーの基礎知識やUCCグループの取り組み、水素焙煎を紹介。サステナビリティへの理解を深め、コーヒーの未来について学び、考えることができます。



コーヒータイプ診断コーナー

質問に答えていくと、あなたに合ったコーヒーを「コーヒーモンスター」がお勧めしてくれる、楽しい参加型のインタラクティブ展示です。



ひろがる楽しみと可能性コーナー

おいしさや健康、アップサイクルといったUCCグループの科学的な取り組みを紹介。コーヒーの新たな楽しみ方と可能性を体験的に学ぶことができます。

POINT 02

さまざまな 「体験プログラム」 を提供

Lounge by UCC COFFEE ACADEMY

味覚体験

試飲やフードとのペアリングなど、味覚を中心に五感を満たす体験により、コーヒーの香りや味わいを深く堪能し、新たな魅力に出会える空間です。



ラウンジの雰囲気



フードペアリング体験



Cube by UCC COFFEE ACADEMY

コーヒー体験

ドリップやブレンドづくり、3Dラテアート体験を通じて、コーヒーを自ら淹れる・つくる楽しさを知り、ここでしか味わえない思い出をつくり出します。



Studio by UCC COFFEE ACADEMY

焙煎体験

焙煎体験を通じて、豆の変化や香りの広がりを五感で楽しみながら、あなただけの一杯を生み出すことができます。



VOICES

「知の継承・進化・創造」で コーヒーの未来をつくる

UCCジャパン株式会社
サステナビリティ経営推進本部
UCCコーヒー博物館 館長
栄 秀文



試行錯誤の末に完成した、 コーヒーの魅力伝える新コンテンツ

UCCジャパン株式会社
サステナビリティ経営推進本部
UCCコーヒー博物館 係長
水川 佐保



UCCコーヒー博物館は、創業者・上島忠雄の「コーヒーの素晴らしさを一人でも多くの人に伝えたい」という想いのもと1987年に神戸で誕生しました。2026年のリニューアルのコンセプトは「知の継承・進化・創造」です。歴史ある展示にサイエンスや気候変動・栽培などのサステナビリティの視点を融合し、誰もが楽しめる「テーマパーク」へと進化します。

私たちはこの場所から、地球環境を守りコーヒーの未来を共に作る大切さを皆さまと分かち合い、次世代へつないでいきます。

今回のリニューアルでは、博物館の歴史を大切に継承しつつ、さらなる学びや発見をお届けする新展示と体験エリアを新設しました。コーヒーの奥深い魅力をいかに表現すべきか、社内外の多くのパートナーが専門性を発揮し、議論と調整を尽くしたことで、細部までコーヒー文化への情熱にあふれた空間に仕上がっています。

展示エリアでコーヒーの「歴史・今・未来」を味わい、体験エリアで特別な思い出をおつくりください。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



SPOT
02

UCC イノベーション センター

コーヒーの可能性を最大限に追求する独自の研究開発施設。最新テクノロジーを駆使し、革新的な技術や製品、サービスの創出を目指します。

SPOT
03

UCC コーヒー アカデミー



コーヒーのすべてを体系的・段階的に楽しく学べる日本初のコーヒー専門機関。初心者からコーヒーを仕事にしたい方まで、レベルや目的に合わせて受講できます。



コーヒーに関する多岐にわたる情報をカバーした日本唯一のコーヒー専門博物館。新たな展示・体験エリアを加え、2026年夏にリニューアルオープンしました。

SPOT
01

UCC コーヒー 博物館

SPOT
04

UCC 神戸本社



パーパス「よりよい世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」を掲げ、コーヒーの新たな可能性を追求し、今までにないコーヒーの価値創造に挑戦し続けるUCC神戸本社です。



「UCC神戸コーヒービレッジ」ツアー

ようこそ、「UCC神戸コーヒービレッジ」へ！

ここは、博物館、研究施設、教育機関、そして本社が一堂に会する、世界でも類を見ないコーヒーの総合拠点です。

コーヒーの物語を五感で巡る聖地、UCCコーヒー博物館。最先端のテクノロジーで「最高の一杯」を追求する拠点、UCCイノベーションセンター。初心者からプロまでコーヒーの知識と技術を磨く教育機関、UCCコーヒーアカデミー。コーヒーの喜びを世界へ届けるUCC神戸本社。「UCC神戸コーヒービレッジ」は、コーヒーのすべてが集まる、まさに「知の集積地」です。

日本の中でもいち早くコーヒー文化が根付いたコーヒーの街、神戸において、地域社会と共にコーヒーの魅力をますます多くの方にお伝えできるように、各施設が深く連携していきます。

「コーヒーの魅力を一人でも多くの方にお伝えしたい」という想いを胸に、ここで育まれる知を継承・進化させ、新たな価値を創造し、コーヒーの無限の魅力を世界へ発信します。

VOICES

神戸から世界へ、コーヒーの 楽しさと価値を次世代につなぐ

UCCジャパン株式会社
サステナビリティ経営推進本部
コーヒーアカデミー学長
川口 雅也

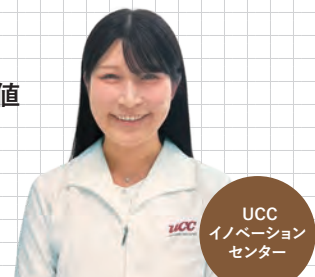


コーヒーアカデミーでは、初心者からプロフェッショナルまで一人ひとりに寄り添った学びを提供しています。新たに生まれ変わった「UCC神戸コーヒービレッジ」は、博物館・研究・教育が一体となり、新たな価値を生み出す最高の舞台です。

私たちはここから、コーヒーの楽しさや価値を次の世代、そして世界へと広げていきます。

最高の一杯のために 技術と科学でつくる新たな価値

UCC上島珈琲株式会社
R&D本部 研究開発部 主任
中川 真緒



イノベーションセンターは、コーヒーの持つ多様な可能性を日々追究しています。成分や効能を科学的に探究する「研究・企画」、新たな製法を生み出す「技術開発」、味覚設計や品質分析を行う「製品開発」の3機能を軸に、「最高の一杯」を支えることが私たちの使命です。

今後は博物館や教育機関との連携を通じて研究知見を広く社会へ発信し、共創拠点である「UCC神戸コーヒービレッジ」を未来の価値創造の場へと育てていきます。

コーヒー文化
啓発のあゆみ

1981年

神戸ポートピア博覧会にて
UCCコーヒー博物館の前身
「UCCコーヒー館」を出展



1987年

コーヒー博物館開業

1992年

神戸ポートアイランドに
UCC神戸本社が完成

2007年

UCCコーヒーアカデミー
(神戸校)開校

2013年

UCC創業80周年。
コーヒー博物館 館内展示
室を全面改装

2018年

研究開発機能の強化とグループ統合
力の最大化を目的にイノベーション
センターを創業地である神戸へ移設

2026年

コーヒー博物館
リニューアルオープン

おいしさと健康を両立 「TOTONOU」発売！

UCCグループは、50年にわたる研究を通じて、コーヒーの新たな価値創造に取り組んできました。近年は「おいしさ」に加え、日々の健やかな暮らしに寄り添う「健康価値」に着目。その研究成果を活かした商品開発を進めています。



コーヒーの健康成分といえば、これまではカフェインやクロロゲン酸類が広く知られてきました。そんな中、UCCグループは独自研究により、コーヒー生豆に多く含まれる成分「トリゴネリン」に新たな可能性を見出しました。トリゴネリンは焙煎によって減少する成分で、研究を重ねた結果、BMIが高めの方の、安静時のエネルギー消費の向上をサポートすることが確認されました。

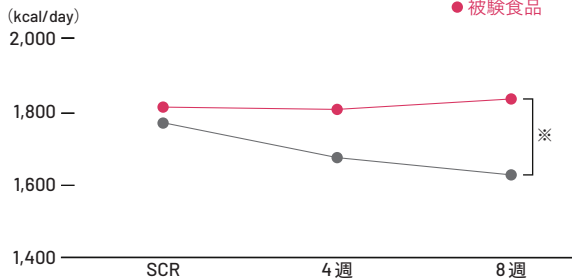
この知見を活かし、UCCグループは、「毎日飲むコーヒーで続ける、代謝をケアする新習慣」を提案します。日々の生活の中で無理なく取り入れられ、おいしさと健康価値を両立できることは、これまでにないコーヒー選びの基準になると考えています。

POINT 01

コーヒー由来トリゴネリンの研究報告

BMIが高めの方の 安静時のエネルギー消費の向上をサポート

安静時エネルギー消費量の実測値推移



【試験デザイン】

被験者：20～29歳の成人男女（18.5≦BMI<30）のうちBMIが高め（23≦BMI<30）の男女20名（被験食品摂取群：9名、プラセボ食品摂取群：11名）
試験内容：コーヒー由来トリゴネリンを150mg含有する被験食品の8週間継続摂取（対照群（プラセボ）は、プラセボ食品の継続摂取）
SCR（摂取開始前）と4週、8週における27℃、19℃環境下での安静時エネルギー消費量を測定（図は27℃環境下の推移として）
※：p<0.05（対照群との比較）8週のデータは一部補完を行い算出 SCR：スクリーニング検査のこと
〈引用文献〉薬理と治療、第51巻、11号、p1713-p1729（2023）より作図（システマティックレビューの対象となった1報を事例として提示しています。）

安静時のエネルギー消費とは？

人が安静に過ごしているときに消費するエネルギーを指します。1日のエネルギー消費のうち、歩行や運動などの活動に伴うものは約30％で、残りの約70％をこの安静時の消費が占めています。



TOTONOU by BLACK 無糖

コーヒー由来トリゴネリンに着目した機能性表示食品
●種類別名称：コーヒー
●原材料：コーヒー（国内製造）
●内容量：500ml



POINT 02

おいしさと健康を両立

原材料はコーヒーのみ※。機能性関与成分であるトリゴネリンはコーヒー由来、香料も添加していません。
※食品表示基準における原材料名の表記です。



【機能性表示食品】

【機能性表示】
本品にはコーヒー由来トリゴネリンが含まれます。コーヒー由来トリゴネリンは、BMIが高めの方の日常のエネルギー代謝の一部である安静時のエネルギー消費の向上をサポートする機能が報告されています。
●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
●本品は、特定保健用食品と異なり、機能性および安全性について国による評価を受けたものではありません。届出られた科学的根拠の情報は消費者庁のウェブサイトで確認できます。
●医薬品ではありません。

プロジェクトリーダーに聞く！

教えて！植田さん

TOTONOUの商品開発に携わった植田さんにお聞きました。

UCC上島珈琲株式会社 R&D 本部
研究開発部 プロジェクトリーダー 植田 恵美



Q 「トリゴネリン」に着目した理由は？

A コロナ禍で生活様式が大きく変化し、日常的に体を動かす機会が減る中、代謝への関心は高まっていました。一方で、代謝そのものに着目した提案はまだほとんどありませんでした。トリゴネリンは、カフェインやクロロゲン酸に比べて未解明な点が多い成分ですが、細胞レベルでは脂肪燃焼に関する興味深い研究報告もあり、ヒトでの有効性は確認されていなかったため、独自の研究に着手しました。

Q こだわった点は？

A 「おいしくて、健康にもいい。そして、毎日続けられること」を目指しました。コーヒーは、おいしさや情緒の価値が重視される飲み物です。だからこそ、単に機能性を加えるのではなく、UCCが培ってきたコーヒーづくりのノウハウや情熱を活かし、おいしさと機能性を自然に両立させることにこだわりました。そして、「コーヒーにはこんな可能性もあるんだ」と感じていただけるような、新しい価値を、UCCらしく提案することを目指しました。

Q 苦勞した点は？

A トリゴネリンに関する研究報告や知見はまだ少なく、エビデンスの構築も、成分を保ちながらおいしいコーヒーを実現する味づくりも、消費者庁への届出も、すべて手探りの状態からのスタートでした。前例のない中で試行錯誤を重ねながら、おいしさと機能性を違和感なく両立させることは簡単ではありませんでした。さらに、機能性表示食品のルールを守りながら、私たちのこだわりをどう表現するかにも工夫を重ねました。

Q 今後の抱負は？

A 私たちは、カフェインやクロロゲン酸に続く新たな健康成分としてトリゴネリンに着目し、コーヒーの可能性を追求してきました。コーヒーには1500種類以上の成分が含まれているといわれ、まだ解明されていないことも数多くあります。だからこそ、これからも新たな価値や可能性が見つかるかもしれません。TOTONOUを通じて、おいしいコーヒーが自然に健康にもつながっていく。そんな価値を、より多くの方に実感していただきたいと考えています。これからもUCCらしく、おいしさを大切にしながら、コーヒーの新たな価値を提案していきたいと思ひます。

コーヒーを通じた健康貢献のあゆみ



The UCC Times

UCCグループのマテリアリティの取り組みをお伝えするUCCタイムズ

Focus-1 水素焙煎コーヒーの普及

カーボンニュートラルな社会に向けた 水素焙煎コーヒーの開発

UCCグループは、2022年のマテリアリティ分析以降、気候変動対策を重要課題としてGHG排出削減を推進しています。その象徴的な取り組みが、天然ガスに代えて水素を熱源とする「水素焙煎」です。コーヒー豆の焙煎工程でCO2排出ゼロを目指す、UCCグループの挑戦についてご紹介します。



#協働と共創 #気候変動 #温室効果ガス

水素焙煎コーヒーを世界に



コーヒー豆の焙煎工程では、一般的に天然ガスが熱源として使用されており、その過程で生じるCO2排出が課題となっています。UCCグループは、この課題解決に向け、燃焼時にCO2を排出しない水素を熱源とした焙煎技術の開発に取り組み、2025年4月、大型水素焙煎機を用いた世界初となる水素焙煎コーヒーの量産を日本で開始しました。

水素焙煎は環境負荷の低減に寄与するだけでなく、従来の天然ガスよりも広範な温度制御が可能なため、コーヒー本来の風味をより引き出すことも期待されます。

現在、本取り組みは国内の多様な企業との共創へと拡大しています。さらに、グローバル展開を見据え、その体制構築に向けた準備を進めています。

一杯のコーヒーに想いを込めて、
水素社会の輪を広げます。

UCC上島珈琲株式会社 営業本部 係長／水素焙煎コーヒー PJT 事務局 橋本 日奈子

水素焙煎コーヒーの量産開始から1年が経過し、非常に多くのお客さまに届いていることを嬉しく思います。皆さまからは「環境にやさしく、なによりおいしい」とのお声をいただき、これまでコーヒーに馴染みのなかった層からも大変好評をいただいています。

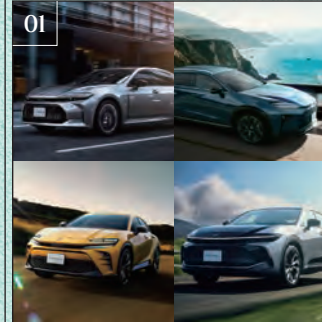
私たちが目指すのは、日常の一杯を通じて誰もが自然に環境貢献へ参加できる未来です。この取り組みが水素社会を広げるきっかけとなるよう、これからもさまざまな場面でその価値を伝え、挑戦を続けていきます。



HYDROGEN-ROASTED COFFEE

HYDROGEN-ROASTED COFFEE NEWS

01



クラウン4車種をイメージした オリジナルの水素焙煎コーヒーを トヨタと共同開発



トヨタ自動車とUCC上島珈琲は、トヨタ「クラウン」の70周年を記念したオリジナル水素焙煎コーヒーを共同開発しました。16代目クラウンの4車種をイメージしたもので、全国のクラウン専門店6店舗で期間限定で販売中。開発にあたっては、両社による深い相互理解のもと、UCCコーヒーアカデミーの土井講師が試乗を通じて体感した走行性能や質感を、水素焙煎特有の風味豊かなブレンドで表現。クラウンの「乗り心地」を水素焙煎コーヒーの「飲み心地」として昇華させました。

02



川崎重工の本社と共創拠点 KAWARUBAで、 水素焙煎 コーヒー採用

川崎重工は、本社および東京・羽田のソーシャルイノベーション共創拠点「CO-CREATION PARK - KAWARUBA」(カワルバ)の喫茶サービスにおいて、UCCの水素焙煎コーヒーの提供を開始しました。水素サプライチェーンの構築に向けた取り組みを推進する中、食品分野での水素活用の一事例を提示しています。それぞれの拠点を訪れる人々に心休まるコーヒーを体感してもらい、水素エネルギーへの興味・関心を醸成する狙いです。

03

セブン-イレブン・ジャパンと 共同開発した 「セブンカフェ 水素焙煎コーヒー」を 全国で発売

セブン-イレブン・ジャパンは、UCC上島珈琲と共同開発した「セブンカフェ 水素焙煎コーヒー」を全国の店舗で販売開始しました。UCCの水素焙煎技術を活用し、弱火でじっくり熱を通す製法により、雑味が少なく、澄んでいながらも飲みごたえがある味と、フルーティーでまろやかな酸味を楽しめる味わいを実現しました。コーヒーが苦手な人にも楽しんでもらえる仕上がりとなっています。



※2026年8月
時点の情報

04

マリオット モクシー大阪本町に 水素焙煎コーヒーを導入

サステナブルな食材選定に注力するマリオット・インターナショナルのホテル「モクシー大阪本町」にて、UCCの水素焙煎コーヒーが新たに導入されました。総支配人らによる試飲では、水素焙煎ならではの「香り高くすっきりとした飲み口」に加え、地球環境に配慮したサステナブルな点が評価され、採用が決定しました。今後は認証食材や環境配慮型商品の提案を通じ、さらなるサステナビリティの追求に努めます。



05

オランダで水素焙煎 大型機での量産へ挑戦

オランダのUCC Coffee Beneluxでも、水素焙煎コーヒーの量産に向けた取り組みを進めており、2025年9月、小型焙煎機での水素焙煎にUCCヨーロッパグループとして成功しました。現在は、大型焙煎機を水素焙煎に対応させるための改造プロジェクトに挑戦しています。

日本からオランダ、そして欧州 へと広がる挑戦

Site Director, UCC Coffee Benelux BV
Jeroen de Jager



欧州での水素焙煎実装における最大の壁は、既存設備への組み込みと、厳しい規制要件のクリアでした。手探りの状態から、社内外のパートナーや専門家と密に連携し、地道な検証を重ねた結果、小規模焙煎機での実証に成功しました。今後は量産化に向けたスケールアップを加速させ、コーヒー焙煎におけるCO2排出削減の実現を力強く牽引していきます。

欧州でも脱炭素化を目指す先駆的な
水素焙煎の取り組みに注力しています



The UCC Times

UCCグループのマテリアリティの取り組みをお伝えするUCCタイムズ

Focus-2 ネイチャーポジティブへの展望

国際農業開発基金と連携した タンザニア支援プロジェクト※

※2026年8月時点の情報

2022年のマテリアリティ分析で特定した重要課題「森林と生物多様性の保全」および「農家の生計向上を目指す取り組み」の施策として、2024年より国際農業開発基金(IFAD)と連携し、タンザニアでのコーヒー農園支援プロジェクトを推進しています。2025年には現地で農事指導を実施し、生産効率の向上に向けた大きな一歩を踏み出しました。



#地球社会への貢献 #ネイチャーポジティブ

「3年間で生産能力2倍」 という目標に向かって

2024年から2026年2月にかけて計3回タンザニアを訪問し、現地の小規模生産者への農事指導で実際に成果が出始めていることが確認できました。指導の内容と効果は、以下のとおりです。

① 現地副産物での堆肥づくり指導

内容: 現地で手に入る副産物でつくる有機堆肥の使用を指導。

結果: 開花・結実が劇的に改善し、実が大量につくようになった。

② 剪定木の新芽発芽確認と実践指導

内容: 老木化による新芽の発芽が不十分な場合、苗木の剪定／台切りを行い、新芽を発芽させる技術指導を実施。

結果: 剪定した場所から新芽の発芽が確認できるようになった。

③ 苗木の植え付け指導

内容: 根の周辺環境を柔らかく保つことや、施肥用に窪みを設けることなどを重点的に説明・指導。また、自作した堆肥を根本に撒きマルチング※で浸食／流出を防ぐ組み合わせも指導。

結果: マルチングによって土壌が保湿され、肥料の栄養吸収効率が上昇。微生物が活性化し、何も生えなかった土地に植物が生え始めた。

※植物の株本や土の表面を、ポリフィルム、藁(わら)、ウッドチップ、堆肥などの資材で覆う園芸・農業技術。主な目的は、地温の調節、乾燥防止(保湿)、雑草の抑制、病害虫の予防、肥料の流出防止であり、野菜づくりや果樹栽培、植栽管理において植物の生育を助ける重要な作業。



支援が実る喜び。 生産効率向上で変わる現地の熱意と暮らし

UCCジャパン株式会社 サステナビリティ経営推進本部 農事調査室 中平 尚己

タンザニアを訪問するたびに、生産者の表情から真剣さや熱意がより強く感じられるようになっていきます。支援内容が生産量の向上に直結し、生計の安定や樹木の健康状態の改善が目に見えて現れていることが、活力につながっているのではないかと思います。

農作業はシンプルかつ反復作業が多く、地味に見られがちですが、同じ目線に立ってその土地に合った方法を見つけ、基本を貫くことが生産性向上や持続可能性に寄与します。一緒に汗をかき、目に見える結果が出始めていることがお互いの信頼関係を深めているのかなと感じています。



生産者の皆さんと共に、目標に向けて着実にあゆみを進めています。タンザニアの笑顔あふれる未来を、これからも共に育てていきます

タンザニア支援 プロジェクトタイムライン

2024 6月	2024 9月	2024 11月	2025 5月	2025 6月	2025 8月	2025 11月～
小規模生産者組合の現地調査開始	ローンチイベント開催	本格稼働に向けた現地視察、情報収集	キックオフイベント、技術指導のデモンストレーション実施	ナーサリーの設置、万博におけるIFAD主催トークイベント開催	技術指導の実践・確認	効果検証

持続可能なコーヒー産業への挑戦

タンザニアのコーヒー農家は、苗木や資金の不足、また最新の情報へのアクセスが困難なため複合的な課題に直面しています。本プロジェクトは、加工インフラの強化や適正農業規範(GAP)の普及を通じて、これらの課題に包括的に取り組んできました。

実際に、堆肥活用やマルチングなどの技術が定着し、土壌の改善や収量・品質の向上が確認されています。今後は、改良品種の展開やさらなるインフラ整備を進め、生産者から関係者まで全員が価値を共有できる、持続可能なコーヒー産業の実現を目指します。

Café Africa Tanzania, Executive Secretary
Samora Mnyaonga



コーヒーへの誇りと日本への感謝

日本と聞いて真っ先に思い浮かぶのは「コーヒーを愛する人々」です。日本の方々が自分たちのコーヒーを味わっていると知ったときは、大きな喜びと誇りを感じました。

プロジェクトを通じて、有機堆肥づくりや完熟チェリーだけを選ぶ収穫方法、剪定・台切り技術を学び、コーヒー栽培への意欲がさらに高まりました。

今後は苗木の普及による生産量向上を期待するとともに、日本の皆さまにはUGOGOのコーヒーをこれからも手に取っていただきたいです。また、水不足を支える井戸整備や貯蔵施設への支援にも期待しています。

UGOGO AMCOS
Kanuth W.Mafunda



独自のフレームワークのもと、サステナビリティを推進

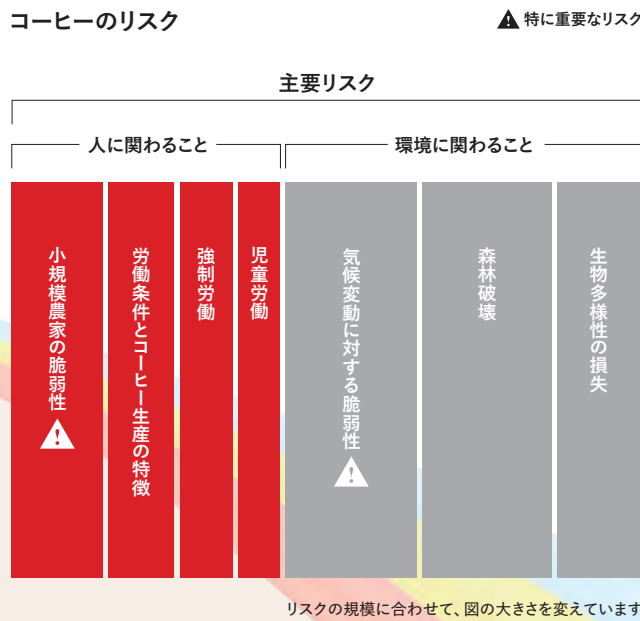
コーヒー産業における主要なリスクに対応するためにUCCグループのサステナビリティにおける最重要課題を検討。
重要課題の解決を通じ、サステナビリティビジョンの達成へ

議論を重ね導いたサステナビリティに対する重要課題

コーヒー産業における主要なリスクは、「気候変動への脆弱性」と「小規模農家の脆弱性」です。特に、「コーヒーの2050年問題」とも呼ばれる、コーヒーの気候変動に対する脆弱性の問題は深刻です。気候の変化や病害虫の蔓延により、アラビカ種の栽培に適した地域が、2050年までに半減すると指摘されています。

世界のコーヒー生産の80%は、2,500万を超える小規模農家によって営まれており、70以上の国と地域でおよそ1億2,500万人がコーヒーで生計を立てています。しかしながら、これら農家のうち、生産性を維持したまま、病害虫などからコーヒーの木を守り適切に管理できるのはわずか5%にすぎません。小規模農家は気候変動や価格変動、資金調達の困難さ、技術へのアクセス制限など、多くの構造的問題に直面しており、コーヒーの収穫量に深刻な影響を及ぼしています。※

これらの問題はUCCグループだけでなく、コーヒー業界全体の課題として真剣に取り組まなければならない喫緊の課題です。



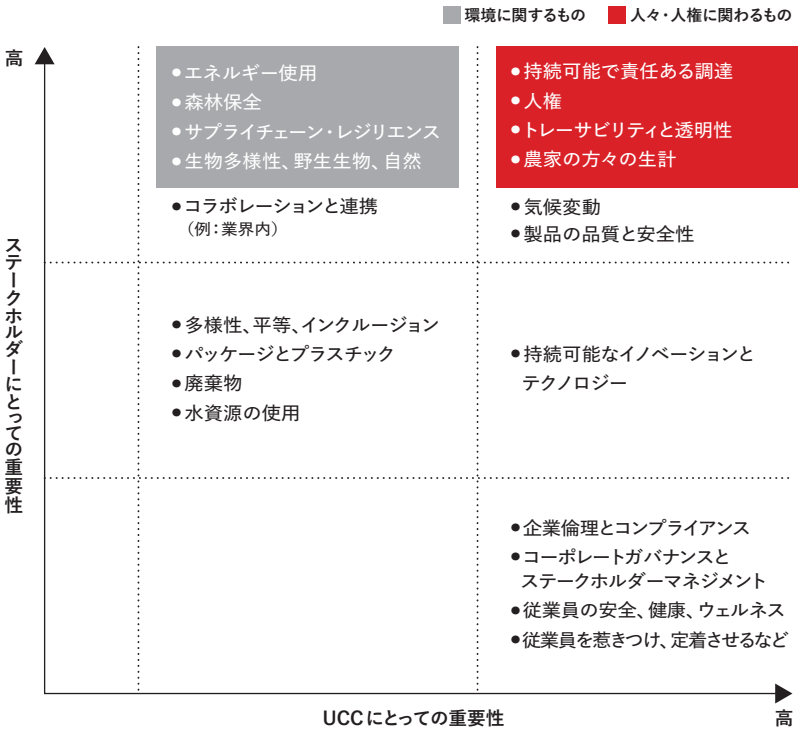
※出典：
<https://link.springer.com/article/10.1007/s10584-014-1306-x>
<https://coffeeandclimate.org/brewing-up-climate-resilience-in-the-coffee-sector/>
<https://www.fairtrade.net/jp-jp/products/fairtrade-products/coffee.html>
<https://www.fairtrade.org.uk/farmers-and-workers/coffee/>

マテリアリティ分析

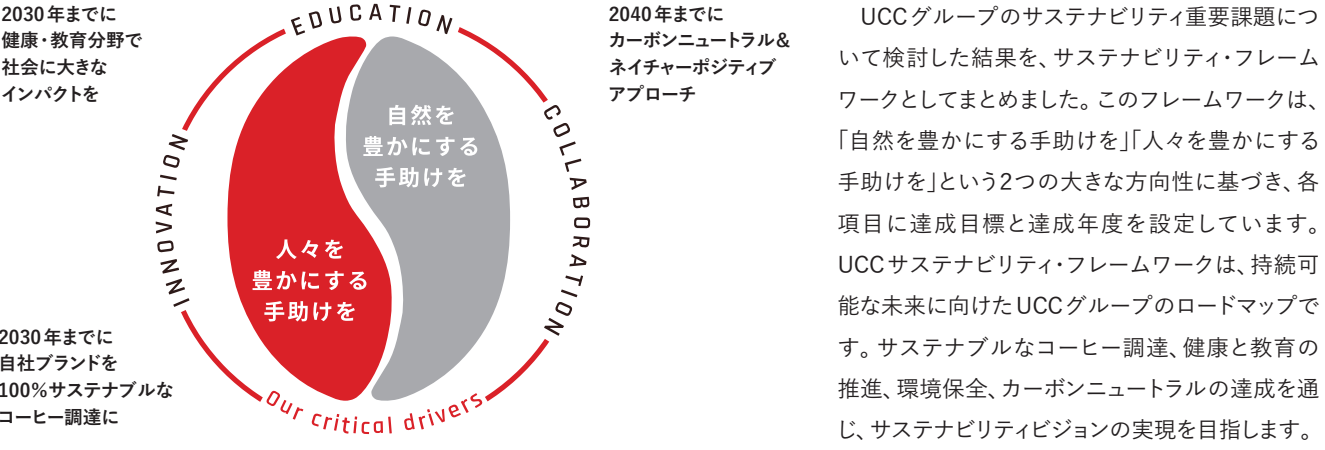
UCCグループは、コーヒー産業における主要なリスク「気候変動への脆弱性」と「小規模農家の脆弱性」に対応するため、そしてUCCグループのサステナビリティにおける最重要課題を検討するために、まず社内外のステークホルダーにインタビューを実施し、外部トレンドとリスクを分析しました。

その後、各課題の重要度を社内外の視点から考察し、最重要課題のマトリックス(マテリアリティ・マトリックス)として整理しました。さらに、執行役員によるワークショップと議論を通じて、課題の優先度を右図のとおり決定しました。

最重要課題のマトリックスに基づいて、UCCグループ内で優先度を高めて対応すべき課題について検討を重ねました。その結果、まず気候変動対策、森林と生物多様性の保全、そして農家の生計向上を目指す取り組みを、優先的に推進することとしました。



サステナビリティに向けたロードマップの設定



持続可能な未来へ向けて

「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」——これがUCCグループの掲げるパーパスです。パーパスを支える5つの価値観(バリュー)のうち、「地球社会への貢献」と「協働と共創」は、サステナビリティ・フレームワークの2つの方向性である「自然を豊かにする手助けを」と「人々を豊かにする手助けを」と深く結びつい

ています。このようにUCCグループは、パーパスからバリュー、そしてサステナビリティ・フレームワークまで一貫した考えのもと、コーヒーに関わるすべての活動を持続可能な未来へとつなげています。以降のページでは、UCCグループの最新のサステナビリティに関する取り組みを、環境、社会、ガバナンスの観点から紹介します。

Environment

持続可能な地球を目指すために／気候変動対策／ネイチャーポジティブアプローチ

2040年までにカーボンニュートラルの実現を目指して

技術革新と運用改善による温室効果ガス排出削減

2030年までにScope 1・2の温室効果ガス排出量を46%削減

温室効果ガスの排出には、UCCグループの各事業会社からの直接排出(Scope1)、工場やオフィスで使用される電力による間接排出(Scope2)、事業会社以外からの間接排出(Scope3)があります。UCCグループでは、2040年までのカーボンニュートラル実現に向けて、2030年までにScope1と2の温室効果ガス排出量を46%削減する目標を設定しています。

2025年度のScope別排出量は、Scope1・2が全体の3.3%、Scope3が96.7%であり、Scope1・2の排出量は、グローバル全体でのエネルギー効率向上の継続的な取り組みなどにより、2019年度比で25.4%削減しました。また、Scope3排出の全対象カテゴリの中では、カテゴリ 1(購入した製品)が78.2%と最も多く、その大半をコーヒー豆が占めています。

今後は多様なステークホルダーとの連携を一層強化し、GHG排出削減の実効性を高めていきます。

自らを革新し、Scope 1排出削減へ挑み続ける

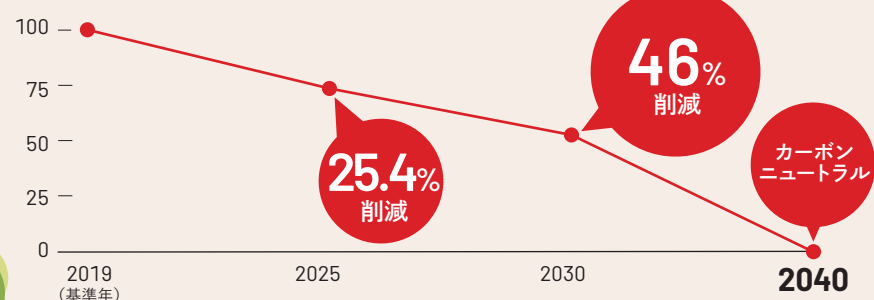
UCCグループでは、Scope 1・2の排出量削減に向けて、革新的な技術の導入と運用プロセスの最適化を継続的に進めています。

オランダでは、焙煎機の運用効率化、省エネ型モーター導入、LED照明への切り替えなど、昨年1年間で10件以上の改善を実施しました。これにより、工場全体の電力使用量を豆1,000kgあたり215kWhから199kWhへと削減しました。

スペインでは、機械の稼働停止要因を減らす技術改善により生産性を向上させました。これにより、再稼働の際に生じる余分なエネルギー使用を抑制し、電力消費の削減につなげました。

UCCグループは、こうした取り組みを通じて、Scope1・2のさらなる削減を目指し、サステナブルな事業運営を推進していきます。

対象23社 Scope1・2における温室効果ガス排出量削減予定



Case study 事例紹介

In Japan #協働と共創 #気候変動

上島珈琲店が神奈川県 の脱炭素実証店舗に採択

上島珈琲店では、2023年5月にEarth hacks(アースハックス)社が提供する「デカボスコア」を外食店として初めて導入し、マイタンブラーの利用促進やストロー、テイクアウト用カトラリーなどのプラスチック資材削減に取り組んできました。

こうした取り組みが評価され、神奈川県が実施する事業「かながわCO2CO2(コッコツ)ポイント+」の実施店舗として採択されました。この事業はCO2排出の少ない商品・サービスを選択したお客さまに、ポイントを通常のポイントに上乘せして付与し、脱炭素に寄与する商品選択の促進効果やCO2削減効果を検証する取り組みです。



ネイチャーポジティブに向けた取り組み

戦略的生産国の選定と、TNFD提言に基づくリスク・機会の特定

ネイチャーポジティブへ—— 3つのフェーズを設定

UCCグループでは3つのフェーズを設定し、ネイチャーポジティブに取り組んでいきます。

- ① 森林伐採をしない「森林破壊ゼロ宣言」を策定・公表し、ルールをつくって運用面を固める
- ② 将来にわたってコーヒーの生産性を高めるため、ナースリー建設、土壌管理、シェードツリーや周辺の有用生物の保護などを検討
- ③ カーボンニュートラルを見据えた植林などの活用

2024年8月には、「森林破壊ゼロ宣言」および特に優先的に生産性の向上と自然生態系回復に関する取り組みを行う「戦略的生産国」の選定について公式サイトで公表しました。

https://www.ucc.co.jp/company/sustainability/nature/nature_positive_approach/

UCCグループが優先的に取り組む 戦略的生産国

UCCグループは2024年8月、ネイチャーポジティブを目指すために優先的に取り組みを行う戦略的生産国として、ブラジル・ベトナム・タンザニア・ウガンダの4カ国を選定しました。選定にあたっては、国際NGOのリスク分析結果や、当社の農事支援活動が効果的に寄与できるエリアなど、複数の視点を考慮しました。

UCCグループとTNFD

UCCグループでは、TNFDが推奨する「LEAPアプローチ」に沿った分析を行い、コーヒー産業およびUCCグループにおける自然関連のリスク・機会を特定しました。この分析を通じて、「森林伐採(破壊)地で作られたコーヒーの販売規制」などのリスクを3項目、「生産地への投資による持続可能な調達の実現」などの機会を3項目特定しました。今後は、UCCグループの事業特性を考慮してさらに分析を深め、

より具体的なリスク・機会の把握と対応策について検討を進めていきます。分析内容については公式サイトを参照ください。

https://www.ucc.co.jp/dist/company/sustainability/images/nature/250825_TNFD.pdf

また、欧州では、EU森林破壊防止規則(EUDR)の施行により、生産地情報の把握と森林破壊のない調達の証明が求められるようになりました。UCCグループは2025年にUCC CSSジュネーブとITチームが中心となり、サプライヤーから必要情報をデジタルで収集するツール「Annex」を導入し、本格運用を開始しました。

Annexにより、生豆契約時のEUDR関連情報の取得から管理、当局への提出までの一連プロセスをデジタル化し、通関前に必要情報を完備できるようになりました。これらの取り組みは、規制を遵守しつつ、「森林破壊ゼロ宣言」に沿った調達運用を支える基盤となっています。

Case study 事例紹介

In Spain #地球社会への貢献 #生物多様性

Cafés Temploによる 自然保全活動

スペインを拠点に事業展開するUCCグループのCafés Temploは、サッカークラブ「Real Betis」が推進するパートナーシップ活動「Forever Green」に参画し、自然環境の保全に取り組んでいます。

その一環として、2025年2月には、セビリア水族館がバレアレス自治政府と協働して



実施するウミガメ保全活動「Head Startingプロジェクト」を支援し、絶滅危惧種の個体数回復に貢献しました。セビリア水族館の保護下で育てられたウミガメは2025年6月に海へと放流され、現在はGPSによって移動が追跡されています。



Environment

サーキュラーエコノミーへの貢献

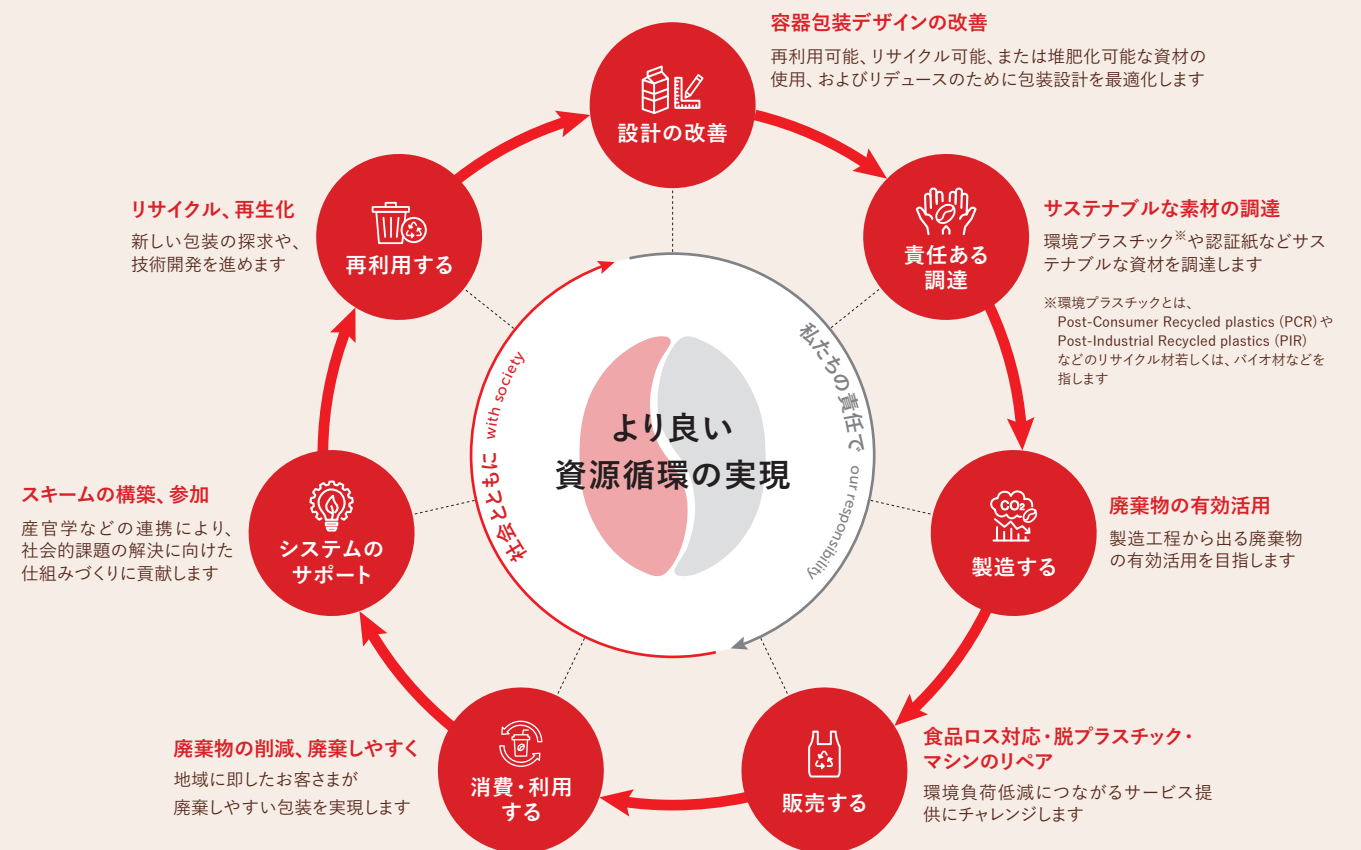
サーキュラーエコノミーを目指して

UCCグループが考える「サーキュラーエコノミー」

従来廃棄されていた資源を有効活用し、可能な限り再利用する「サーキュラーエコノミー(循環型経済)」。UCCグループは、この考え方にに基づき、7つの視点から事業活動を推進しています(右図参照)。

例えば、使用済みの紙カップを原料にハンカチなどの商品へと生まれ変わらせる取り組みや、抽出後のコーヒー粉や製造工程で出るプラスチックなどの廃棄物の有効活用・リサイクルを進めています。

また、容器包装の軽量化やコンパクト化による省資源化に加え、製品の設計段階から環境負荷の低減につながる工夫をしています。



Case study 事例紹介

In Japan #地球社会への貢献 #協働と共創

異業種連携でコーヒー廃材をファッションへ

UCCジャパンは、アパレルブランドを展開するアーバンリサーチと資源循環で異業種コラボを実現しました。両社は関西に本社を置き、サステナビリティ活動に積極的であるという共通点があります。

今回のコラボ企画では、「上島珈琲店」から排出される抽出後のコーヒー粉を

アップサイクル素材として活用。廃棄繊維を原料とするリサイクル糸を30%配合したTシャツを染色して、大阪・関西万博にて限定発売しました。さらに、コーヒー生豆の輸送に使われる麻袋をアップサイクルしたバッグも同時に発売しました。



同じ志を持つパートナーとの共創によって、新たな一歩を踏み出しました

URBAN RESEARCH Co., Ltd.
SDR(サステナビリティ推進) SSチーフ 宮 啓明

環境・社会課題の解決には、業界を越えて共創し、具体的なアクションを起こしていくことが必要だと考えています。その思いから、アーバンリサーチはさまざまな企業・団体との連携を積極的に進めています。UCCジャパンさまとお話した際、同じ想いを持っておられることにご縁を感じました。大阪・関西万博をきっかけにUCCジャパンさまの多大なるご協力のもと実現した本企画は、来場者の記憶に残るだけでなく、それぞれの業界にとって小さくても大きな一歩になったと感じています。今後さまざまな活動をご一緒できることを期待しています。

In France #地球社会への貢献 #挑戦と前進

再生素材を使用した新しいコーヒーカプセル



UCCフランスのヴァランス焙煎所では、2025年から使用するすべてのアルミカプセルを新型デザインに切り替えました。従来は100%新品のアルミ材料を使用していました。新型のカプセルでは平均80%以上のリサイクルアルミ材料を使用しています。

アルミは製錬時のCO2排出量が多く、環境負荷の高い金属です。今回の切り替えにより、カーボンフットプリントを従来比で約65%低減しました(1,000カプセルあたり18.6kgCO2eqから4.8kgCO2eqへ低減)。原料採掘や精錬工程の削減にもつながり、資源循環と環境負荷低減の両面で大きな改善効果が期待できます。

In New Zealand #地球社会への貢献 #挑戦と前進

使用済みコーヒー袋が、農場を支える資源へ

ニュージーランドの焙煎所Robert HarrisとL'AFFAREは、同国で初めてコーヒー袋の素材をリサイクル可能な軟質プラスチックに切り替えたブランドとなりました。この先駆的な取り組みは現在も続いています。使用済みとなった袋は回収プロジェクトに参画する小売店を通じて回収され、リサイクル専門企業であるフューチャー・ポスト社が再資源化。主にフェンスの支柱のほか、造園用の枕木やレール、ボラードなどにも加工されています。この柱は木材より丈夫で長持ちするだけでなく、素材自体に防腐処理が不要なため、薬剤による土壌汚染の心配もありません。ニュージーランド全土の農場やブドウ園で広く活用されています。



コーヒー袋が農場のフェンス用の柱やボラードに



Voice
消費者とともにコーヒー袋を資源に変える

UCC COFFEE NEW ZEALAND LIMITED
Head Of Coffee - Operations

Candice Morgan

ニュージーランドでは、使用済みコーヒー袋を回収・再生する取り組みを業界全体で推進しています。活動当初は回収コストの負担や消費者の理解促進が課題でしたが、店頭表示やデジタルメディアを活用した情報発信によって、回収に参加する消費者の数が大きく増えました。今後は回収拠点の拡充や戸別回収の試験導入により、さらに参加しやすい仕組みを整え、再生利用の輪を広げていきます。



Social

産地支援とコーヒーコミュニティのより良い暮らしのために

サステナブルなコーヒー調達

責任ある調達体制の構築と、共感を呼ぶコミュニケーションの展開

サステナブルなコーヒー調達の取り組み

コーヒー産業は生産国から消費国まで、広範囲にわたるバリューチェーンを有しています。そのすべての過程に関わるUCCグループでは、それぞれの過程においてサステナビリティを意識して取り組んでいます。

UCCグループでは、サステナブル調達の枠組みにおいて「UCCグループの責任ある調達原則」を策定し、サプライヤーの皆さまには、それに基づく「UCCグループ サプライヤー行動規範」を遵守していただいて人権を尊重した調達を実践しています。2022年秋には「サステナブルなコーヒー調達」プログラムも始動しました。詳細は公式サイトをご覧ください。

<https://www.ucc.co.jp/company/sustainability/people/coffee/index.html>

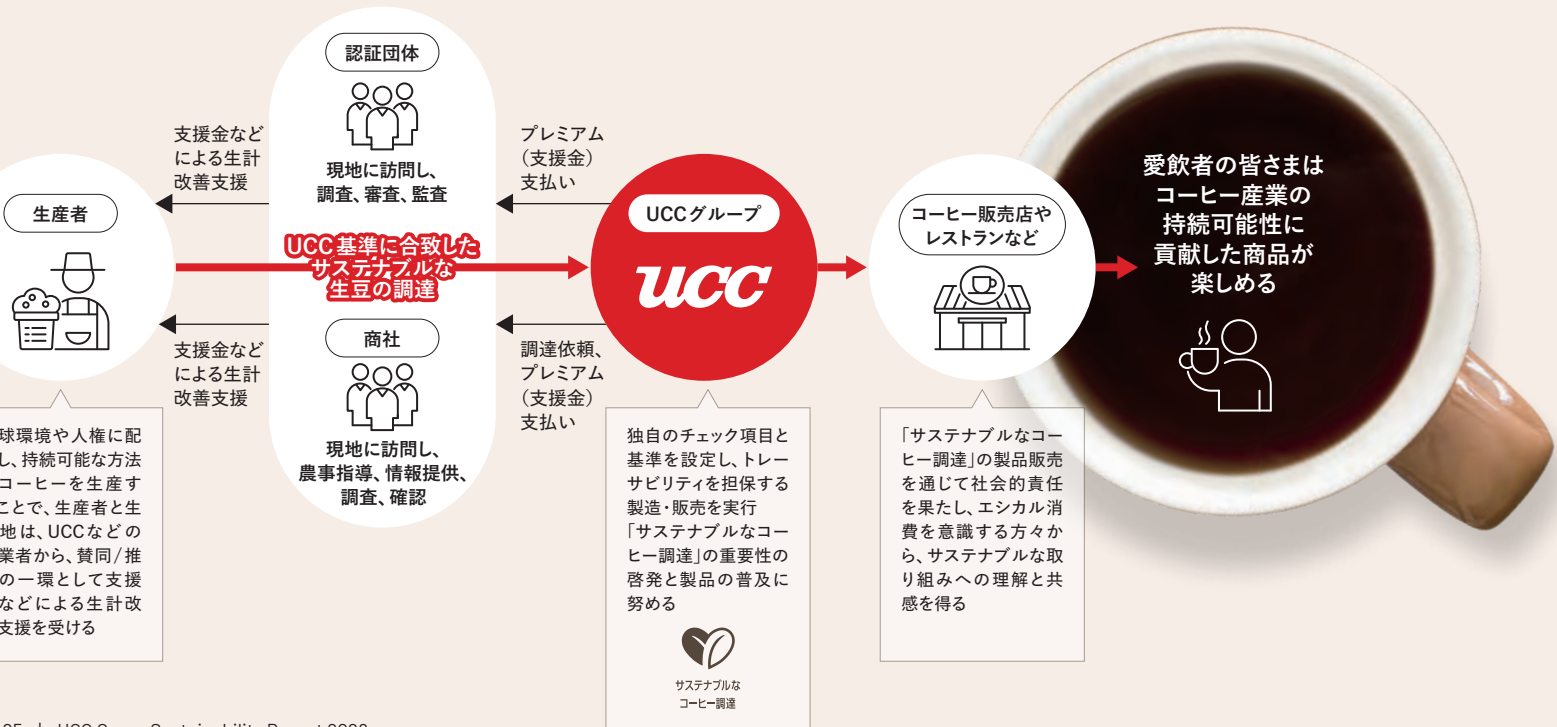
理解・共感の輪を広げるために

サステナブルなコーヒー調達の仕組みはコーヒー産業にとって有意義ではあるものの、その内容は専門的でもあります。そこでUCCグループは、すべてのステークホルダーの皆さまに理解・共感していただけるよう、キービジュアルをはじめとするコミュニケーションツールを開発しました。

キービジュアルは、生産者や森林・大地などをハート型に組み合わせることで、「環境や人への優しさや思いやり」というUCCのロゴマークのコンセプトを直感的に表現。また、サステナブルなコーヒー調達で定める26のチェック項目のうち、7つの代表事例をより分かりやすく可視化。地球や動植物、生産者の方々の課題を身近に感じていただけるように工夫しました。



キービジュアル



サステナブルなコーヒー調達のための7つの代表事例

<https://www.ucc.co.jp/company/sustainability/people/coffee/>

Case study 事例紹介

In Japan #コーヒーの価値探求 #地球社会への貢献 #挑戦と前進 #協働と共創

UCCブランドで初、「DRIP POD」全品がサステナブルなコーヒー調達基準を満たした商品に

UCCグループは、カプセル式ドリップコーヒーシステム「DRIP POD(ドリップポッド)」の10周年企画第4弾として、2025年9月に定番カプセル7種類を「サステナブルなコーヒー調達」基準を満たした製品に切り替えました。これにより「DRIP POD」

家庭用・業務用を含む定番のコーヒー全品で、UCCの基準を満たしたコーヒー豆の含有率が50%を超えました。「DRIP POD」はUCCブランドとして初めてすべての製品にサステナブルなコーヒー調達のロゴを付与したブランドになりました。



Topics | In Taiwan

阿里山農園コーヒーが台湾のファミリーマートとモスバーガーで採用

UCC Taiwanは、台湾の阿里山農園と協力し、地元の農業振興や雇用創出に取り組むとともに、地産地消の推進によってGHGの排出削減にも貢献するなど、社会と環境に配慮した活動を続けています。2026年には、台湾のファミリーマートで「Let's Café 阿里山極選綜合咖啡」を店頭で販売することになりました。この製品の生産者は先住民族のツォウ族(鄒族)であり、5年以上UCCと連携している阿里山農園「優遊吧斯」を調達農園の一つにしています。また、台湾のモスバーガーでも、2026年から「優遊吧斯」農園のコーヒー豆を100%使用した「阿里山コーヒー」を店舗限定でスポット販売することになりました。UCC Taiwanは引き続き地域に根付いた活動を続けていきます。

ファミリーマート: <https://udn.com/news/story/7270/9279752>
モスバーガー: <https://www.ctee.com.tw/news/20260120700675-431401>



人権の尊重

人権ロードマップに基づき、誠実な活動を実施

人権ロードマップ				
		~2024年度	2025~2029年度	2030年度
方針による コミットメント	人権方針	人権方針の策定・公開	グループ内外への浸透(グループ内研修の実施)	
	人権リスクの 評価	人権リスク評価の実施	人権リスク評価の再実施	
	負の影響の 防止・軽減	サプライチェーン	2030年までに自社ブランドを100%サステナブルなコーヒー調達とする	
			「UCCグループの責任ある調達原則」「UCCグループ サプライヤー行動規範」に基づく調達	
			既存の取り組みを継続(サプライヤー自己評価)※対象範囲のさらなる拡充検討	
			既存取り組みの顕著な人権課題への対応状況を再確認	
	人権デュー デリジェンス	UCC グループ	農地支援の検討・実施	
			グループ内従業員の顕著な人権課題の防止・軽減策の継続実施 (長時間労働軽減、労働安全衛生、差別・ハラスメント、男女格差などに関し、既存人事方針の運用、従業員アンケートによる実態把握など)	
取り組みの 実効性評価		上記負の影響の防止・軽減策に対する モニタリング・レビューの体制構築	モニタリング・レビューの実施	
説明・ 情報開示		サステナビリティレポートの発行		
		EU企業サステナビリティ報告指令(CSRD) 対応		
是正	苦情処理 メカニズム	JaCER参加/通報受付開始	サプライチェーンすべてのステークホルダーからの通報を「対話救済プラットフォーム」を通じて受付	
			サプライチェーン関係者への通報窓口の周知	

Case study

In Europe #人権 #倫理観と責任

労働者の安全性向上に向けた取り組み

UCCグループは、2024年度に実施した人権デューデリジェンスで特定された人権侵害リスクのうち、労働安全衛生について、人権ロードマップに示したとおり、2025年度に負の影響を防止・軽減する施策を展開しています。

UCCフランス(Valence)では、2025年7月に焙煎チームを対象に、私たちが日常業務においてミスをする要因を理解し、事前に察知・防止する力を養う、安全に関する

ワークショップを実施。神経科学の専門家による講義に加え、少人数グループに分かれ過去に起きたトラブルやヒヤリ・ハット事例をグループメンバーと共有しました。共有した内容を基に、防止策を検討・発表し、チーム共通の安全意識(Stop&GO／Shared Awareness)の醸成を図りました。

スペインのUCC COFFEE SPAIN S.L.U.社では、焙煎効率の向上、包装ラインのデジタル化、焙煎エリアの環境改善を推進し、機械化を通じて生産効率と安全性の向上を図りました。

オランダのUCC Coffee Benelux BV社では、夜間輸送の廃止や騒音対策によっ

て地域住民への影響を低減するとともに、省エネ機器や新暖房システムの導入によるエネルギー効率化も実現しました。また、スペインのCocatech社では、作業台へのマグネットボードの設置、シザーリフト式パレットトラックの導入、作業用プラットフォームへの手すり追加や段差の解消、ハンドレールの設置など、人間工学・健康・安全の観点から職場環境を改善しました。

UCCグループは欧州各拠点での労働環境の改善や、安全対策の知見を他の拠点にも展開していきます。

Social

UCCグループと
ステークホルダーの皆さまのウェルビーイング

笑顔をつなぎ、 ウェルビーイングを 高める

従業員のウェルビーイング

産地研修を通じて、コーヒーの価値と仲間との絆を深める

UCCグループは、直営のハワイコナ農園で従業員向けの産地研修を実施し、収穫・精製・乾燥の工程を体験する機会を提供しています。事前学習や事後の報告会を通じて、コーヒーの希少性や農園の持つ価値への理解を深めるとともに、帰属意識の醸成やグループ連携の強化につなげています。

Case study 事例紹介

In Japan #挑戦と前進

人財育成により、無形価値を社会へ循環



「for Youプログラム」とは？

プロフェッショナルで高感度な人財を育成する社内教育プログラムです。マニュアルに依存せず、お客さま一人ひとりに向き合い、その視点に立って寄り添うホスピタリティを体験できる人財の育成を目指し、豊かな顧客体験の創造につなげています。

本プログラムでは、接客・販売スキルに加え、論理的思考力や言語化・発話力を習得し、お客さまを理解した上で自ら考え判断する力を養います。社内資格試験に合格すると、社内ホスピタリティ資格「for You expert」を取得できます。



Voice

資格に挑戦し合格した経験を原動力に

ユーシーシーフードサービスシステムズ株式会社
営業本部 営業部 東日本 for You 3ブロック
ブロックマネージャー

吉崎 修斗

「for You プログラム」で高度なスキルを身につけ、上位資格「for You expert Sapphire」の取得に挑戦して合格した経験は、大きな自信となりました。現在は全店への展開推進を担い、各店のホスピタリティに触れるたびに新たな刺激を受けています。店舗育成でスタッフが「共創の瞬間」を体験し成長していく姿が何よりの喜びです。今後もUFSならではの価値を最大化できるよう努めていきます。

In Spain #協働と共創

家族との絆を深め、心豊かな働き方を支援

従業員の心身の安定と活力を高めるために、スペインのUCCグループ各社は「ファミリーデー」を開催しました。このイ

ベントは、家族の職場理解を深め、従業員一人ひとりが安心して働ける温かな職場環境づくりにつながっています。



Voice

工場見学で深める理解、育む誇り

UCC COFFEE SPAIN S.L.U.
CSR Manager

Patricia Rubio Martinez

工場見学を通じて、家族や他の事業所の皆さんに工場での日々の仕事や現場の工夫、これまでの取り組みを身近に感じていただく機会となりました。普段は見ることのできない職場の様子に触れることで、理解や共感が深まり、従業員にとっても組織としての一体感や仕事への誇りを改めて感じられる時間となりました。今後も、節目ごとにこうした取り組みの継続を検討していきます。

地域社会のウェルビーイング

Case study 事例紹介

In Japan #健康 #地球社会への貢献

神戸市における地域福祉の支援
——コーヒーを通じた安らぎの居場所づくり

コーヒーには人と人をつなぎ、心安らぐ時間を生み出す力がある——UCCグループはこの力を信じ、超高齢社会の日本において身近な課題である認知症とともに生きる方々への支援に取り組んでいます。

UCCグループは神戸市社会福祉協議会と連携し、認知症の方やご家族、地域住民が集う「こうべオレンジカフェ」へ自社製品を寄贈しています。寄贈するのは、販売終了やパッケージ変更などで市場流通が難しくなったものの、品質に問題のない製品です。食品ロス削減に貢献するとともに、地域に開かれた居場所づくりを支

えています。継続的な支援として、2025年度は5月に約1万杯分、9月に約3,000杯分を、2026年4月にも3,000杯を市内の各カフェへ提供しました。北区のカフェである「カフェあい」では、参加者がコーヒーを囲んで交流し、ご家族が専門職員に悩みを相談する場面も見られました。また、長田区のカフェでも、健康管理や認知症予防のプログラムを彩る一杯として活用されています。

コーヒーが生み出す自然な対話と安らぎは、地域社会の絆を深め、当事者やご家族が安心して暮らせる社会づくりにつながっています。



UCCのコーヒー製品とお茶菓子を囲んで、和やかな交流の時間が生まれています



Voice

多様な挑戦を支える人財育成

日本パーソネルセンター株式会社
シェアードサービス本部/インクルージョンサービス 係長

井上 幸子

特例子会社として、従業員一人ひとりの適性や強みを活かし、安心して長く働き続けられる環境と適切な支援体制を整えています。アビリンピックへの参加は、本人の成長だけでなく、周囲の意識向上や職場の活性化にもつながりました。今後も伴走する支援を通じて、継続的に力を発揮できる人財の育成を進めていきます。



In Japan #挑戦と前進

多様な人財が輝き、共に成長できる環境づくり

UCCグループの特例子会社である日本パーソネルセンター（JPC）は、障がいのある社員一人ひとりの適性や強みを活かし、「できること」を積み重ねながら成長できる環境づくりに取り組んでいます。

毎年出場している「アビリンピック（障

害者技能競技大会）」は、技能向上や意欲喚起だけでなく、職場全体の活性化にもつながる重要な機会です。参加した従業員は挑戦を重ねる中で大きく成長し、全国大会までの歩みそのものが、かけがえない経験となっています。

※ アビリンピック：「アビリティ」（ABILITY・能力）と「オリンピック」（OLYMPICS）を合わせたもので、障がいのある方々が、日頃培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の方々に障がいのある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的として1972年から毎年開催されています。

In Thailand #健康 #地球社会への貢献

タイにおける伝統を通じた地域コミュニティの支援

UCCグループは、地域社会との深い結びつきが人々のウェルビーイングを育むと考えています。

タイでは、地域コミュニティの中心的な役割を担う僧侶に向けた「年次歯科健康診断イベント」において、コーヒーや飲料の提供を通じた支援を行っています。現地の伝統文化に敬意を払い、人々が集う場に寄り添うことで、地域社会との有意義なつながりを深め、心安らぐコミュニティづくりに貢献しています。



In the Benelux Region #協働と共創

地域とともに進める、人々の自立と多様な働き方の支援

オランダのBolswardに拠点をもち、オランダを含む30か国以上に製品を販売するUCC Coffee Benelux BVでは、地元での就業機会が限られがちな方々に向け、社会的課題解決を目的とした企業であるEmpatec

社、Dokwerk社と連携し、安心して技能を伸ばせる環境を提供しています。年間約1万時間の業務委託を通じ、多様な人財が活躍できる包摂的な雇用の創出と、地域社会の持続的な発展に貢献しています。



サステナビリティ教育

2030年までに教育の力で社会への貢献を拡大する

UCCグループでは、「2030年までにサステナビリティ教育の受講者数30万人」を目指しています。2021年度より、コーヒーの幅広いバリューチェーンとSDGsとの深い関連性を活かし、日本全国の小学生から大学生までを対象とした教育活動に積極的に取り組んでいます。

Case study 事例紹介

In Japan #協働と共創 #コーヒーの価値探求 #教育

子どもたちとともに、滋賀の未来を考える



学校の授業とは異なる放課後の学童という伸び伸びとした環境で、楽しそうにセミナーに参加する姿勢が印象的でした

UCCグループは、次世代を担う子どもたちが社会や環境の課題に直接触れ、自ら考える力を育むことが、持続可能な地域社会を築く礎になると考えています。その考えのもと、滋賀県の企業参加型体験プログラム「こどなBASE」に参画しています。「こどなBASE」は、県内の企業・団体が持つ独自の体験プログラムを放課後児童クラブなどの教育現場へ届けることで、子どもと大人が共に地域の未来を考える機会を創出するものです。2026年3月末時点で累計116社が参画し、115回のプログラムを通じて3,625名の児童が学びを体験しました。

UCCグループは「コーヒーとSDGs for キッズ〜コーヒーのある、あたりまえをこ



れからも。〜」をテーマとしたプログラムを数回実施しました。コーヒーの基礎知識や栽培環境をはじめ、地球温暖化がもたらす「コーヒーの2050年問題」や小規模農家が直面する現状、エチオピアやルワンダでの支援活動などを紹介。クイズや問いかけを交えながら、子どもたちと一緒に「自分たちにできること」を深く考えました。

初めての学童向けに実施した回では、子どもたちがリラックスした雰囲気の中で積極的に発言する姿が印象的で、私たちにとっても伝え方を磨く貴重な学びの場となりました。こうした活動を継続し、次世代の関心を育み、地域社会との絆をより一層深めていきます。

In Japan #挑戦と前進 #協働と共創 #教育

ベネッセとのコラボレーションで教材展開やイベントを実施

小中学校向けICT学習ソフトに探究学習教材を提供

UCCグループは、「進研ゼミ」「こどもちゃれんじ」などの教育サービスや生活支援サービスを展開するベネッセコーポレーションと協働し、ベネッセが配信する小中学校向けICT学習用ソフト「ミライシード」の授業支援アプリ「オクリンクプラス」に探究学習教材の提供を開始しました。このコンテンツは、さまざまな企業・団体が連携し、教科書で学ぶ内容と実社会の課題を結びつけることで、主体的に探究できる内容となっています。

今回UCCグループが提供した教材は、コーヒーを題材に気候変動課題を取り上げ、エチオピアでの森林保全や、タンザニアでの小規模生産者支援の取り組みを紹介しながら、その解決策を自ら考える内容となっています。

地球温暖化対策と向き合う

提供

UCC

Every coffee, every moment



芦屋市立潮見中学校で「探究的な学び」を支援

探究学習教材の作成と並行して、芦屋市(兵庫県)教育委員会主催の教育イベント「Ashiya Education Day in autumn」でもベネッセコーポレーションと協働し、芦屋市立潮見中学校1年生の「探究的な学び」を支援しました。

探究学習のテーマは「認証コーヒー」。日本では認証マークの認知率や、認証コーヒーの購入率が低いという、UCCグループも直面している実社会の課題を題材にしました。「どうすれば認知を上げられるか」「どうすれば認証マークがついたコーヒーを買ってもらえるか」という問いに対し、生徒たちはグループごとに探究を進めました。

生徒からは、TikTokを活用した若年層向けのプロモーション案や、認証コーヒーを使ったスイーツの販売など、自由な発想で多角的な案が次々と出されました。最優秀賞には、UCCが開発した食べるコーヒー「YOINED」の認証コーヒー版をつくるという提案をしたグループが選ばれました。UCCグループ従業員は企業視点でフィードバックしました。

約2カ月間にわたり、共通の題材に対してチームで課題を分析して解決策を導き出した過程は実践的な学びになったのではないかと考えています。自分たちのアイデアをクラスメートや企業に発表した経験が、生徒たちの自信と成長への刺激になることを期待しています。



教科書では得られない「生きた社会」を学ぶ貴重な機会となりました

芦屋市教育委員会 学校支援課 主査

池原 征紀

今回の授業では、UCCグループさまが実際に直面されている課題を題材に、担当者の方の熱い想いに触れることから始まりました。これにより、生徒たちは遠い国の出来事ではなく、実社会の地続きにある問題として、主体的に向き合うことができました。自ら情報を収集し、仲間と共に解決策を模索するプロセスは、芦屋市が大切にしている「探究的な学び」そのものです。この経験を通じて、生徒たちはコーヒーという身近な存在から環境や生産地の課題へと視野を広げ、考えるようになりました。自分たちの生活や消費行動が社会とつながっていることを実感し、「自分たちに何ができるか」を問い直す姿が見られたことに、生徒たちの成長を感じました。



解決に向けて取り組む過程は単に教科書を使用する授業では得られない大きな学びがあったのではないかと考えています

Governance

UCCグループの透明性向上とリスクマネジメント

ガバナンスとサステナビリティ

真のグローバル企業への飛躍を目指して

グローバルガバナンス

UCCグループは、日本、欧州、アジア地区、オセアニア地区の世界4地域体制から成り、グローバル本社であるUCC Holdingsとそれぞれの地域統括会社の役割は下記のとおりです。

- UCC Holdings：グループ統括、生豆などの調達 ほか
- UCC ジャパン：日本国内の各子会社・関係会社の株式保有、統括、海外向け輸出 ほか
- UCC EUROPE：欧州事業（コーヒーの製造・販売）の統括
- UCC ASIA PACIFIC：アジア事業（コーヒーの製造・販売、喫茶・飲食業）の統括
- UCC ANZ：オーストラリアおよびニュージーランドのコーヒーの製造、販売、コーヒーマシンの販売・メンテナンス・レンタル、喫茶・飲食業

各地域を統括するRegional CEOが各地の状況や重要な動向を整理し、UCC Holdingsへ情報を集約・提示します。これを受け、グローバルCEOが検討した後、取締役会の了承を経て、経営方針が決定されるプロセスとなっています。

サステナビリティ推進とガバナンス

UCCグループは、ステークホルダーとの関係を、経営上考慮すべき重要な要素と考えており、お客さま、従業員とのコミュニケーションや、一般社団法人ビジネスと人権対話救済機構（JaCER）への加入など、さまざまなステークホルダーからの多様な意見を取り入れる仕組みを構築しています。これにより、経営における重要なフィードバックを得て、適切な意思決定を行います。

また、コーヒーという商材を扱うUCCグループは、サステナビリティを経営上の最重要課題と位置づけ、「自然を豊かにする手助けを」と「人々を豊かにする手助けを」という2つのコンセプトに基づき、グループ全体のサステナビリティ指針となるサステナビリティ・フレームワークを策定し、このフレームワークに基づき、GSSC（Global Sustainability Senior Committee）を頂点とするサステナビリティに関するガバナンス体制を確立しています。GSSCのメンバーは、UCC HoldingsのPresident of Japan Business、President of Business and Trading、各地域の事業責任者、UCC

ジャパンのサステナビリティ経営推進担当執行役員と経営企画担当執行役員で構成され、サステナビリティに関する目標達成に向けた活動の進捗確認や、課題解決策の提示・推進を担っています。

UCCグループは、地域の中核会社が地域の状況を考慮しながら、グローバル共通のサステナビリティ方針に沿った活動を推進しています。毎月開催されるグローバルサステナビリティミーティングでは、GSSCのメンバーと各地域の実務担当者が参加し、各地域での活動状況や目標の進捗を共有した上で、課題があれば、その対策について議論します。また、サステナビリティの目標に対する成果や課題を共有し、優れた取り組みを他の地域に展開するための協議も行います。経営上重要な環境変化や経営判断が必要な事案についても話し合い、適時適切にグローバルCEOや取締役会へ報告し、グループとしての経営意思決定を行っています。

この月次ミーティングで議論された重要な内容は、グローバル全体の主要経営陣が参加する半期に一度のサステナビリティ

ティ経営報告会でも共有され、UCCグループ全体のサステナビリティ活動の方向性が管理・維持されます。

UCCグループは、こうした体制を通じて、グループとして決まった方針を着実に事業活動へ反映させています。さらに、サステナビリティに関する感度を高めるため、主要なグループ企業の役員を対象に、年に1回サステナビリティ研修を実施しています。この研修では、最新の課題、先進事例、国際的なNGO/NPOの視点など、多岐にわたって取り上げています。それぞれの分野に精通した外部有識者による講演や活発な意見交換を通じて、理解の深化を図っています。

このような独自の体制により、UCCグループは自グループだけでなく、グローバルにコーヒー産業の持続可能性の維持に貢献しています。

2025年サステナビリティ役員研修

開催日：
2025年10月30日

テーマ：
トヨタのサステナビリティ経営

内容：
ウーブンシティの未来型カフェ実証でも協働するトヨタ自動車のサステナビリティ経営の概念・考え方、それらに基づく具体的な取り組みについて

講師：
トヨタ自動車株式会社
サステナビリティ推進担当 統括部長 大塚友美氏



UCCグループの事業の主なエリアである日本、欧州、アジア、オセアニアを統括する事業会社役員から構成されるシニアコミッティー。サステナビリティに関する目標達成のため、アクション進捗を評価し、課題があれば迅速に解決し実行をリードしています。

サステナビリティ経営報告会（半期）
HD全取締役・主要事業会社社長や執行役員による
全社取り組み進捗確認

グローバル サステナビリティ ミーティング（月次）
進捗と課題解決についてレポーティング

日本

JAPAN

UCC ジャパン

グループのサステナビリティ戦略立案、サステナビリティ目標に対する全体進捗管理に加えて、ジャパンエリア統括として、日本事業会社のサステナビリティアクションをリードし実行しています。

UK

EUROPE

UCC EUROPE

欧州エリア統括として、欧州各国の状況を踏まえながら、欧州事業会社のサステナビリティアクションをリードし実行しています。

シンガポール

AP

UCC ASIA PACIFIC PTE.

アジアエリア統括として、アジア各国の状況を踏まえながら、アジア事業会社のサステナビリティアクションをリードし実行しています。

オーストラリア／ニュージーランド

ANZ

UCC COFFEE AUSTRALIA
UCC COFFEE NEW ZEALAND

オセアニアエリア統括として、オセアニア地域各国の状況を踏まえながら、オセアニア事業会社のサステナビリティアクションをリードし実行しています。

Scope1・2・3の温室効果ガス排出量

(単位:t-CO2)					
	2019年(基準年)	2022年	2023年	2024年	2025年
Scope1					
日本	45,693	38,456	38,045	38,017	36,002
欧州	11,870	10,767	11,316	11,590	11,685
アジア	1,695	1,963	2,033	2,170	1,850
オセアニア	1,976	1,976	1,976	2,357	2,693
グローバル合計	61,234	53,162	53,370	54,134	52,230
Scope2					
日本	44,782	34,149	30,793	29,702	27,802
欧州	2,044	345	225	66	81
アジア	1,109	1,166	1,266	1,310	1,184
オセアニア	781	781	781	719	744
グローバル合計	48,716	36,441	33,065	31,797	29,811
Scope1・2合計	109,950	89,603	86,435	85,931	82,041
Scope3					
1 購入した製品サービス	—	—	—	1,858,501	1,863,114
2 資本財	—	—	—	7,234	11,545
3 Scope1・2に含まれない燃料及びエネルギー活動	—	—	—	21,818	16,995
4 輸送、配送(上流)	—	—	—	175,799	183,436
5 事業から出る廃棄物	—	—	—	24,304	19,412
6 出張	—	—	—	22,279	1,662
7 雇用者の通勤	—	—	—	2,111	2,001
8 リース試算(上流)	—	—	—	4,113	3,874
9 輸送、配送(下流)	—	—	—	15,764	22,278
10 販売した製品の加工	—	—	—	21,791	16,456
11 販売した製品の使用	—	—	—	196,155	163,975
12 販売した製品の廃棄	—	—	—	93,993	77,839
13 リース試算(下流)	—	—	—	該当なし	該当なし
14 フランチャイズ	—	—	—	該当なし	574
15 投資	—	—	—	該当なし	該当なし
Scope3合計	—	—	—	2,443,862	2,383,161

注)「サステナビリティレポート2024」からの変更点:Scope3においてグループ間の重複算定分を除外、修正

大気汚染物質排出量

(単位:t)	
	2025年
SOx排出量	4.4
NOx排出量	32.2

データ対象は日本

廃棄物・副産物排出量

(単位:t)	
	2025年
排出量	37,323
再資源化量	31,650
再資源化率	84.8%

水使用量

(単位:m³)	
	2025年
取水量	2,508,372
排水量	1,087,869

公式サイトもぜひご覧ください。



UCC 上島珈琲
コーヒー関連事業

特集で紹介した「コーヒー博物館」や働く人にフォーカスした「UCC COFFEE MAGAZINE」、グループのサステナビリティの事例を発信する「UCC Sustainability Challenge」など、さまざまなコンテンツをご覧ください。



<https://www.ucc.co.jp/index.html>



UCC コーヒープロフェッショナル
業務用サービス事業

「Smile Magazine」では、業務用商品や展示商談会「UCC Smile Festa」におけるサステナビリティへの取り組みもご覧いただけます。



<https://www.ucccoffeeprofessional.co.jp/>



ユーシーシーフードサービスシステムズ
外食事業

各ブランドサイトとも連動しており、各店舗での活動を紹介しています。主力業態である「上島珈琲店」におけるサステナビリティへの具体的な取り組みもご覧いただけます。



<https://www.ufs.co.jp/>



UCC EUROPE
海外事業(ヨーロッパエリア)

各エリアで展開している事業の詳細やサステナビリティの取り組みについてご覧いただけます。



<https://ucc-europe.com/>

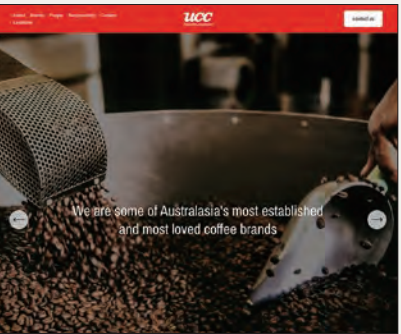


UCC ASIA PACIFIC
海外事業(アジアエリア)

コーヒー世界大会での成果の最新ニュースやサステナビリティの取り組みなどについてご覧いただけます。



<https://ucc-apac.com/>



UCC COFFEE ANZ
海外事業(オセアニアエリア)

展開するブランドの紹介や UCC ANZ で活躍する人材に焦点を当てたコンテンツなどをご覧いただけます。



<https://www.ucc-anz.com/>



<https://www.ucc.co.jp/>



UCCのサステナビリティ
<https://www.ucc.co.jp/company/sustainability/>



UCCグループ企業情報
<https://www.ucc.co.jp/company/>

